

公益社団法人

全国柔道整復学校協会

会報

令和6年1月

第69号

- ◆ 会長年頭所感
- ◆ 令和5年度柔道整復師専科教員認定講習会東日本会場開催報告
- ◆ 令和5年度柔道整復師専科教員認定講習会西日本会場開催報告
- ◆ 第65回教員研修会開催報告
- ◆ わが街の見どころ聞きどころ（京都医健専門学校）
- ◆ 教員紹介リレー（日本医学柔整鍼灸専門学校 住吉泰之先生）

柔道整復学校養成施設倫理綱領

主 旨

公益社団法人全国柔道整復学校協会は、質の高い柔道整復師育成を以って国民の保健衛生の向上に寄与するため、柔道整復師養成施設（以下「学校」という）の倫理綱領を定める。

1. 学校の使命

学校は、国民の保健衛生の向上に寄与する柔道整復師を養成することを使命とし、建学の精神と理念を実践し、教育水準の維持及び質の向上に努める義務と社会的責務を全うするものとする。

2. 教育水準の維持及び質の向上

学校は、常に教員の資質の向上と教育内容の充実を図るとともに、多種多様な分野に対応し得る質の高い専門的教育を推進し、社会に求められる柔道整復師の育成に努める。

3. 自主性と他校連携

学校は、建学の精神と理念に基づき自主性をもった学校運営を行う中で、教育水準の維持及び質の向上を念頭に、他校とも連携し、社会に貢献できる柔道整復師を育成することに努める。

4. 法令等の遵守

学校は、養成施設指定規則及び指導ガイドライン並びにその他の法令を遵守すると同時に、公序良俗に違反する行為を排し、柔道整復師養成施設としての社会的責務を果たす中で、国民からの信頼と期待を得ることに努める。

5. 学校評価の推進

学校は、質の高い教育とよりよい教育環境の整備と充実を図るため、自己点検・自己評価の実施はもとより、第三者評価にも積極的に取り組み、同時にこれに基づいた情報公開を行うことで、透明性の高い学校運営に努める。

平成 29 年 12 月

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

会報



令和6年 ● 第69号

目次

頁

会長年頭所感	2
令和5年度柔道整復師専科教員認定講習会東日本会場開催報告	3
令和5年度柔道整復師専科教員認定講習会西日本会場開催報告	5
第65回教員研修会開催報告	6
理事会議事録	
・ 令和5年度第6回、第7回、第8回	14
【委員会の状況】	
・ 教育支援委員会教科書部会	
令和5年度第1回部会議事録、第2回部会議事録	29
・ 教育支援委員会教員研修等部会	
令和5年度第2回部会議事録	33
・ 教育支援委員会専科教員認定講習部会	
令和5年度第5回部会議事録	39
・ 広報・調査委員会	
令和5年度第3回委員会議事録	42
【わが街の見どころ聞きどころ】	
・ 「4年ぶりに本来の姿で開催！京都・祇園祭」（京都医健専門学校）	46
【教員紹介リレー】	
・ 日本医学柔整鍼灸専門学校 住吉泰之先生	48
【各名簿】	
・ 正会員一覧、学校理事長・校長・正会員名簿、賛助会員名簿、委員（部）会員名簿	52
・ 編集後記	60
・ 学校協会案内図	



会長年頭所感

公益社団法人全国柔道整復学校協会

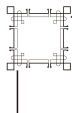
会長 谷口和彦

新年おめでとうございます。会員校の皆様には旧年中、当会事業に格別なるご高配を賜り心よりお礼申し上げます。

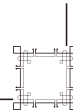
さて、平成30年に柔道整復師学校養成施設指定規則の改正に伴った新カリキュラムが始まり、まもなく6年が過ぎようとしています。私たちは当初からカリキュラムの次期改訂を見据え、皆様にアンケート等ご協力を頂きながら新カリキュラムに対する問題点や課題等の整理や分析を行ってまいりました。令和4年には「柔道整復師学校養成施設カリキュラム次期改訂に関する検討会議」を設置し、公益社団法人日本柔道整復師会と議論を重ね、1年かけて次期改訂に対する要望をまとめました。その内容は「平成30年度の改正を基にさらに効果を上げるための整理」「改正以前の柔道整復師学校養成施設カリキュラムの整理」「将来求められる柔道整復師を育成する教育内容」「柔道整復養成分野および養成施設機関として適正な教育実施の確認」の4つを大きな柱としています。これには懸案事項だった柔道整復学教育モデル・コア・カリキュラムの検討を含めており、卒後、臨床現場で必要とされる柔道整復師像を明確にし、全ての養成施設が同一基準で教授することで基本的臨床実践能力を獲得させようとするものです。

また、自ら第三者評価の導入を求めるに至りましたのは、実現すれば各校の教育の質向上のみならず優秀な人材輩出へと繋がり、延いては柔道整復師の更なる社会的地位向上に貢献するものと信じるからです。以上のことからカリキュラムの改訂は柔道整復師学校養成施設だけの問題ではなく、公益社団法人日本柔道整復師会、公益財団法人日本柔道整復研修試験財団、一般社団法人日本柔道整復接骨医学会といった関係団体とともに業界が一丸となって実現を目指すべきものと捉えております。ようやくスタート地点に立った段階ではありますが、後に振り返った時、令和6年が「柔道整復教育および柔道整復業界にとって未来に繋ぐ転機となった」と言えるよう努力してまいります。

最後になりましたが皆様の健康と益々のご発展を祈念し、年頭の挨拶とさせていただきます。



令和5年度 柔道整復師専科教員認定講習会 東日本会場開催について



主幹校：学校法人敬心学園 日本医学柔整鍼灸専門学校

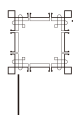
令和5年度の柔道整復師専科教員認定講習会東日本会場では、17名の方が受講され、めでたく全員の方が修了を迎えることができました。今年度の東日本会場では、関東圏以外に、北は東北・南は東海と遠距離から参加される方が複数おり、受講生の間では広い交流の輪が生まれたことと思います。柔道整復師として現場で働きながら、休みの日に移動・宿泊を伴う2日間の講習を受けるという、体力的にも精神的にも大変ハードな日程をそれぞれ過ごされたことと思いますが、そのような中で半数を超える計13名の方が皆勤賞を受賞されたことに、一同心から敬意を表します。

今年度は日本医学柔整鍼灸専門学校が主幹校となり、日本柔道整復専門学校、並びに東京メディカル・スポーツ専門学校のご協力のもと、6月3日（土）から10月14日（土）まで、約5カ月間にわたり認定講習会を開催いたしました。今年度の講義は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行して以降、初めての完全対面での実施となりました。カリキュラムの中には、オンライン授業における指導方法等、コロナ禍を経て変化した教育現場の実態についても学ぶ機会があり、医師や教員として様々な分野の第一線で活躍しておられる先生方の講義に、受講生の方が熱心に聞き入っている姿が大変印象的でした。全員の教育実習も滞りなく終えることが出来、ご協力いただきました養成施設の先生方にも心より感謝申し上げます。

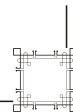
10月14日に行われた閉講式には、谷口会長、関口副会長、齊藤理事、本校校長の奥田のほか、協力校担当者である日本柔道整復専門学校の山口先生にもご列席いただきました。閉講式終了後、仲間と共に喜び合う受講生の方の姿を拝見でき、主幹校として無事講習会の修了を迎えたことに、安堵と喜びを感じました。

講義を担当していただいた先生方、協力校ならびに学校協会の皆様に置かれましては、講習会の運営に多大なるご協力を賜り、無事に終了できましたことに厚く御礼申し上げます。また受講生の皆様におかれましては、改めてお祝い申し上げます。今回の講習会で得た知識やご縁を大切にいただき、今後も業界の将来を担う1人の柔道整復師として、また教育者として後進の育成に広くご活躍されますことを祈念いたします。





令和5年度 柔道整復師専科教員認定講習会 西日本会場開催について



令和5年度柔道整復師専科教員認定講習会西日本会場は、平成医療学園専門学校および明治東洋医学院専門学校を協力校として、6月10日（土）から10月21日（土）まで、主幹校である森ノ宮医療学園専門学校を主会場として4ヶ月間にわたって実施され、熱心なご指導を行っていただいた先生方を始めとする関係諸氏のおかげをもちまして滞りなく終了することができました。

5月14日（日）に受講試験実施がありました。講習会は、18名が受講され、10月1日（日）の受講試験も、無事に全員が合格されました。

新型コロナウイルスが第5類に移行してから初めての開講でしたが、これまでとは、感染対策が大きく変わっても、平常の生活がすぐに戻ることない状況でした。

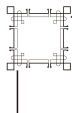
そのような環境でも、受講が始まってからも、教壇に立っておられる先生方に勝るとも劣らない様子で熱心に受講している姿が印象的でした。日々の業務の合間に休日返上で受講している環境であるにもかかわらず、この認定講習会への熱い思いを4ヶ月間保ち続け、終わってみれば9名が皆勤賞に輝くという結果でした。また、受講生同士の結びつきも、とても強いように感じました。

養成校として、柔道整復師を志す方々に夢を持たせることのできる業界作りを目指してまいりたいと考えており、また、このような時期に専科教員としての志を持って臨んでいただいた受講生の思いに応えてまいりたいとも考えております。受講生におかれましても、受講時の熱い想いを今後の活動でも継続し、発展させていただきたいと願っております。

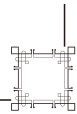
最後になりましたが、講師の先生方および協力校運営委員としてご尽力いただきました関係者の皆様方の方々のご協力のおかげをもちまして、無事に令和5年度の専科教員認定講習会を終了できましたことを、この場をお借りして心より感謝を申し上げたいと思います。

週末の貴重な時間を返上して受講された皆さんの健闘を称えつつ、今後の専科教員としての活躍に大きな期待を寄せまして、報告とさせていただきます。





第65回 教員研修会報告



教育支援委員会教員研修等部会 部会長 葉山 直史

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 第65回教員研修会が、令和5年9月23日（土祝）、24（日）の両日、福岡県北九州市のリーガロイヤルホテル小倉で開催されました。

今年の主幹校は、学校法人国際学園 九州医療スポーツ専門学校にご担当いただきました。

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類移行となり、以前のような日常が少しずつ戻る中、日々の学校教育に熱い思いをもつ330名以上の教職員に全国からご参集いただきました。

本年度の研修会より大会テーマを「柔道整復の新時代へ」とし、1日目はVRなどの新技術や動画を用いた教育について、2日目は普遍的な教育すなわち学生指導において課題解決に繋がる「目標達成」や「コミュニケーション」等の内容を学ぶという構成で企画されました。

開会の式典では、来賓として、公益社団法人日本柔道整復師会 長尾淳彦会長、一般社団法人日本柔道整復接骨医学会 坂本歩副会長、一般社団法人柔道整復教育評価機構 関口正雄理事長ならびに公益社団法人福岡県柔道整復師会 塩川哲也会長にご臨席を賜りました。

学校協会 教育支援委員会教員研修等部会 伊藤譲 担当理事が開会の辞を述べられ、引き続き学校協会 谷口和彦会長、主幹校 学校法人国際学園 九州医療スポーツ専門学校 水嶋章陽理事長より挨拶があり、来賓の長尾淳彦様、坂本歩様、関口正雄様よりご祝辞を賜りました。

13時45分より講演1「人体のカタチを味わう喜び～VR/AR技術を活用した教育実践～」の演題で、国立看護大学校 生命科学 教授 本間典子先生にご講演いただきました。座長は平成医療学園専門学校 校長 北野吉廣先生にご担当いただきました。

解剖学や生理学教育で活用するためのXR技術を用いた基本的な操作方法から、看護の学生を対象に行った育成のカリキュラムやステージ設定などを紹介していただきました。

体験の時間では主幹校の教員が壇上でヘッドマウントディスプレイとアプリの操作を行いました。最初は操作方法に戸惑っていましたが、慣れてくると部位名の記入などもスムーズに行うことができ、体験した感想では「実際にヘッドマウントディスプレイを装着したほうがよりリアルに感じ取ることができ、学生もより身体のことをイメージしやすいはず。」とのことでした。学生が操作方法に慣れ、VRやアプリを組み合わせて行うアクティ

ブラーニングは新時代の学習方法であると感じました。

15時30分より、分科会が3つのテーマで行われました。

分科会：第1テーマ「学習困難な基礎医学が先端技術を使ったら克服できる？～VR機器を使った授業を提案～」

学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター 研究員 小林英一 先生にご講演いただき、座長は四国医療専門学校 四宮英雄 先生にご担当いただきました。

医療系専修学校における高い中退率に対して、VR機器を活用した授業の提案についてお話をして頂きました。①入学前の進路選択のミスマッチを防ぐ為、VRを活用した職業体験の実施 ②専門学校でのVRを活用した基礎医学（解剖学、生理学）に対する講義についてご説明を頂いた後、実際に専修学校で実験を行い、基礎医学の点数にどのような変化が見られるのかについて発表して頂きました。

講演後は実際に職業体験で使用したVRを体験する「体験会」を催して頂き、多くの教員が参加し、その技術に驚かれていました。

分科会：第2テーマ「骨折、脱臼、疾患の実際 ～動画で学ぶ柔道整復術～」

宮越整骨院・鍼灸院 宮越亮典先生にご講演いただき、座長は急遽予定が変更となり森ノ宮医療学園専門学校 小笠原宏之先生にご担当いただきました。

柔道整復師として19年間、また教員として12年間の教育経験から、動画を効果的に用いる事によって学生の行動変容や能動的学習を惹起できることや、そのために意図し、工夫していることなど具体的な内容にまで踏み込んでお話しいただきました。

実際に宮越先生が対応された肩関節脱臼やコーレス骨折等の症状・整復・固定動画を見せることによって学生は感動し、感動すれば学生は興味が湧き、知識が伝わりやすいという事も動画の中で実際の学生の反応を用いてご紹介されました。

さらに肘内障整復後に患児にお菓子をとりさせる行為は実際に有用なのかどうか、宮越先生自身が疑問に思い実践した結果、取らない事もあることなども動画で紹介されました。動画を聞いた教育が今後の学生指導にどう活用できるのか、とてもイメージしやすく、講演終了後も演者にたくさんの質問が寄せられていました。

分科会：第3テーマ「経験したことのない徒手整復を教える？教えない？」

～3Dアプリによる発生機転の理解からシミュレーターを用いた実技教育へ～

日本体育大学 保健医療学部 整復医療学科 教授 伊藤譲先生にご講演いただき、座長は教員研修等部会 前部会長 本澤光則先生にご担当いただきました。

養成施設が学生に脱臼・骨折の徒手整復をどこまで教えるかを整理するために、3つのポリシーやコア・カリキュラム、クリニカルラダーの各段階を示していただき、脱臼・骨折の発生機序や施術について、整復動作の練習に3Dアプリやシミュレーターを用いた教育

手法を紹介していただきました。

柔道整復師は脱臼・骨折に対する施術が応急処置であれば自らの判断で可能であるため、今回のシミュレーターを用いてのトレーニングや評価の必要性を発表していただきました。

終了後も多くの参加者が演者の周りを囲み質問や意見交換がなされていたのが印象的でした。

16時50分より、ポスターセッションが開催され、全7題（研究助成5題、一般発表2題）の発表が行われました。

ホテル4階にポスター掲示の一室を設け、口頭発表形式でなく、時間内を全ての発表内容に対して自由に閲覧、質疑応答できるように配慮して頂きました。先端技術を用いたVR教材、子育て支援の効果、模擬試験時の滞在時間と学力の関係など、大変興味の魅かれる内容が多く、終了時刻まで先生方の質疑応答が活発に行われていました。

今回の研究発表内容は下記の通りです（1～5．研究助成発表、6,7．一般発表）。

1. 審美系スポーツ若年選手のルルヴェ動作とシーバー病の関連性について
明治東洋医学院専門学校 棚原 勝平・神内 伸晃・吉田 勲生・三澤 圭吾
天理大学 神谷 宣広
2. 低出力レベルレーザー照射が筋疲労の予防効果に及ぼす影響－筋硬度を指標として－
平成医療学園専門学校 益 賢明
宝塚医療大学 保健医療学部 澤田 規
3. 解剖学における先端技術を活用した取り組み：VR教材の活用
四国医療専門学校 柔道整復学科 山本 幸男・四宮 英雄・鹿庭 祥平
4. キネシオテープの貼付が筋活動および筋酸素動態に及ぼす影響
帝京平成大学 ヒューマンケア学部 柔道整復学科 川村 茂
明治東洋医学院専門学校 柔道整復学科 吉田 勲生
明治国際医療大学 保健医療学部 柔道整復学科 沖 和久
5. 腓腹筋に対する伸縮性テープの効果－筋硬度・筋厚・筋輝度を指標とした比較－
宝塚医療大学 保健医療学部 柔道整復学科 中島 琢人・澤田 規
6. 柔道整復師が実施した、トリプルPを用いた子育て支援の効果について
四国医療専門学校 山本 幸男
7. 模擬試験の滞在時間と学力の関連性
平成医療学園専門学校 石井 裕己・丹治 良輔・樋口 朋基・嶋田 リエ・北野 吉廣

18時15分より懇親会が開催され、主幹校の九州医療スポーツ専門学校 赤木恭平校長よりご挨拶があり、続いて公益社団法人 福岡県柔整師会 会長 塩川哲也先生よりご祝辞を賜り、公益社団法人 全国柔道整復学校協会 櫻井康司顧問の乾杯のご発声により懇親会が始まり

ました。今年は立食形式にて、参加者は移動しながら多くの交流を図ることができた懇親会となりました。中締めは公益社団法人 全国柔道整復学校協会 米田忠正監事にいただき懇親会を終了しました。

2日目9:00より講演2が始まり『Z世代の学生を国家試験合格に導く目標達成の技術』の演題でアチーブメント株式会社 代表取締役会長兼社長 青木仁志先生にご講演いただきました。座長は学校法人国際学園 九州医療スポーツ専門学校 理事長 水嶋章陽先生にご担当いただきました。多くの人を目標達成に導くために、選択理論心理学という「人の行動のメカニズムを紐解いた」心理学を活用して指導することの重要性を教えてくださいました。外的コントロールでは学生に回避コントロールが働いてしまうため、内的にコントロールするための教育技法を訓練していくことを教えてくださいました。

そのための主体性を引き出す関わり方「人間関係構築の原則」の場面では、青木先生から参加者へ「ぜひ携帯で写真を撮ってください」とご配慮いただきました。人間関係構築の身につけたい7つの習慣を実施することで今後の学生との関係性がどう変化するのか、楽しみになりました。

10:35からの講演3では『学生の心をつかむ話し方～PREPAを用いたコミュニケーション力向上で退学率減少を目指す～』の演題で、株式会社スピーチジャパン 代表取締役 三橋泰介先生にご講演いただきました。座長は学校法人国際学園 九州医療スポーツ専門学校 教務部長 桑野幸仁先生にご担当いただきました。学生の心をつかむために「どのような話し方をすれば良いのか?」「どのような順番で話せばよいのか?」など、現役アナウンサーである講師が具体例やワークショップを通じて、話し方を激変させるプログラムを教えてくださいました。伝わるための言葉選びの準備やアリストテレス説得の3要素など、日頃学生の前で教鞭をとる教員にとってとても興味深い内容でした。

講演終盤には、PREPAの紹介、そしてPREPAを用いたワークを行い、明日から活用できる実践的な内容でした。

講演終了後、12:05より閉会式が行われ、次年度主幹校の学校法人小倉学園 新宿医療専門学校 小倉芳裕校長よりご挨拶があり、続いて学校協会 関口正雄副会長の閉会の辞をもって終了しました。

研修会の企画運営では、ご迷惑をおかけしたところもあったかと思いますが、「柔道整復の新時代へ」という新テーマで開催した第65回教員研修会が、参加された先生方にとって実り多きものになれば幸いです。また、参加者の皆様の研修会当日の円滑な進行へのご協力に深く感謝申し上げます。

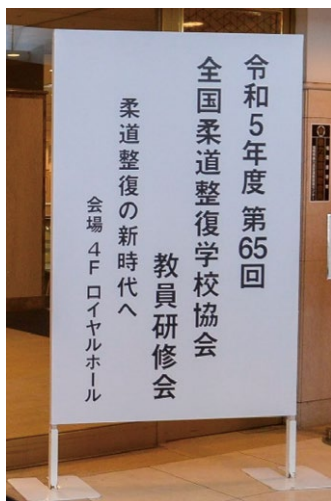
第65回教員研修会の開催にあたり、全国柔道整復学校協会 谷口和彦会長、伊藤譲担当理事をはじめ、全国柔道整復学校協会役員の皆様方、ご来賓の皆様方、教育支援委員会教員研修等部会の皆様方、全国柔道整復学校協会会員の教職員の皆様方には、多大なるご協力を頂き厚く御礼申し上げます。

また、学校法人国際学園 水嶋章陽理事長、九州医療スポーツ専門学校 赤木恭平校長、ならびに教職員の皆様方には主幹校の労をとって頂き感謝の念に堪えません。

次年度第66回教員研修会は東京都で、新宿医療専門学校が主幹として開催されますので、万障お繰り合わせの上、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

〔日程〕 令和6年9月21日（土）、22日（日）

〔会場〕 東京保健医療専門職大学



開会式



公益社団法人 全国柔道整復学校協会
谷口和彦会長



学校法人国際学園 九州医療スポーツ専門学校
水嶋章陽理事長



公益社団法人 日本柔道整復師会
長尾淳彦



一般社団法人 日本柔道整復接骨医学会
坂本歩副会長



一般社団法人 柔道整復教育評価機構
関口正雄理事長





講演 1 国立看護大学校 生命科学
教授 本間典子先生



講演 2 アチーブメント株式会社
代表取締役会長兼社長 青木仁志先生



講演 3 株式会社スピーチジャパン
代表取締役 三橋泰介先生



分科会 第1テーマ
学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター
研究員 小林英一 先生



分科会 第2テーマ
学校法人森ノ宮医療学園 森ノ宮医療学園専門学校
非常勤講師 / 宮越接骨院・鍼灸院 宮越亮典先生



分科会 第3テーマ
日本体育大学 保健医療学部 整復医療学科
教授 伊藤 謙 先生



ポスターセッション会場



協賛出展企業ブース



懇親会

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

令和5年度 第6回理事会議事録

1. 開催された日時 令和5年9月15日（金） 14:00～16:10

2. 開催された場所 全国柔道整復学校協会事務局
東京都港区浜松町1-6-2丸神ビル1階

3. 理事総数及び定足数 総数 8名、定足数 5名

4. 出席理事数 8名

5. 議 題

協議・決議事項

第1号議案 次期カリキュラム改訂に向けた検討の件

第2号議案 柔道整復研修試験財団に対する今後の対応の件

第3号議案 委員会委員人事の件

第4号議案 来年度教員研修会の件

報告事項

第1号報告 代表理事の職務執行報告及び行事予定（9月、10月）の件

第2号報告 各委員会等

第3号報告 関係団体

第4号報告 その他

6. 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認等

冒頭で事務局長より、オンラインによる出席を含めて理事総数8名中全員が出席であること、したがって開催要件の定足数たる過半数5名以上の出席を充足していることを確認した。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款第32条の規定に基づき、谷口会長が議長として本会議の成立を宣した。

議事録署名人は定款第33条第2項の規定に基づき、谷口会長、関口副会長、米田監事及び清水監事とし、議案の審議に移った。

協議・決議事項

①第1号議案 次期カリキュラム改訂に向けた検討の件

最初に齊藤理事から、

- ・「カリキュラム次期改訂に向けた検討作業部会」では、①平成30年度に追加されたカリキュラムの問題点、②従来からあったカリキュラムの問題点、③今後の柔道整復師を見据えたカリキュラムの追加、の形で検討結果をまとめた
- ・この検討結果を基に、カリキュラム改善を検討する会議の開催を厚生労働省に対し要望するため、学校協会、日本柔道整復師会及び柔道整復研修試験財団の三団体連盟による要望書案を作成した

と理事会提出資料に基づき説明。

次に谷口会長から、作業部会の検討結果に対し日本柔道整復師会から意見が提出されているが、カリキュラム改善検討会の設置要望が通り検討会が開始された時点でこれ等も検討して行くことになる、と説明。

理事会の議論では、要望書案の検討項目に教育の質保証としての第三者評価の在り方と第三者評価機関との関係で項目立てした方が良い、また要望書の発出者に一般社団法人や他の柔道整復関係団体も併記されている方が効果的ではないだろうか、との意見が出された。

谷口会長は、今月26日に開催予定の「柔道整復師学校養成施設カリキュラム次期改訂に向けた検討会議」では、日本柔道整復師会委員に対し検討案を提示して同会内での検討を要請したいと考えており、それまでに要望書案に対する修正意見を提出するよう各理事に求めると共に、日本柔道整復師会との協議を経て厚生労働省に要望書を提出する時期は11月頃を見込んでいると説明。

続いて伊藤理事から、「柔道整復学教育モデル・コア・カリキュラム策定作業部会」で検討を行っている柔道整復師の養成に関わるモデル・コア・カリキュラム（以下、「コアカリ」という。）案は四章から構成されている、と理事会提出資料に基づき説明。

次に谷口会長から、

- ・これまでコアカリが策定されていなかったことから、次期カリキュラム改訂に向けた検討と並行して作業部会で検討
- ・コアカリの必要性は、追って日本柔道整復師会より厚生労働省に働きかけてもらう予定であり、それまでにコアカリ案に対する意見の提出を求めたい

と説明。

理事会は、審議の結果、過半数の賛成でこれ等提案を可決した。

②第2号議案 柔道整復研修試験財団に対する今後の対応の件

関口副会長から、柔道整復研修試験財団を巡る動きについて報告。

次に谷口会長から、未来志向の観点から、日本柔道整復師会及び柔道整復研修試験財団と協議の場を持つことについて、本理事会に同意を求めたいと説明。

理事会は、審議の結果、過半数の賛成で本案を可決した。

③第3号議案 委員会委員人事の件

齊藤理事から、空席になっていた教育支援委員会教科書部会副部会長に呉竹医療専門学校の村澤幸弘先生を充てる案を説明。審議の結果、過半数の賛成で本案を可決した。

④第4号議案 来年度教員研修会の件

伊藤理事から、来年度教員研修会懇親会場について、費用面等の見地から総合的に検討した結果、ホテルメトロポリタンエドモントを選定したいと説明。審議の結果、過半数の賛成で本案を可決した。

報告事項

①第1号報告 代表理事の職務執行報告と行事予定（9月、10月）の件

谷口会長及び関口副会長から、9月及び10月における職務の執行状況等を報告。

事務局長から、9月及び10月の各委員会並びに学校協会等諸行事の予定を報告。

②第2号報告 各委員会等

ア. 教育支援委員会教科書部会

齊藤理事から、作成中の「柔道」教科書について、今後、理事会に内容を提示したい、また来年3月に完成予定と報告。

イ. 教育支援委員会教員研修等部会

伊藤理事から、今年度教員研修会の開催準備は順調に進んでいる、また再来年度の令和7年度教員研修会の開催地選定については学校協会主導で行うことを検討中と報告。

ウ. 教育支援委員会専科教員認定講習部会

伊藤理事から、今年度講習会修了試験問題の検討を行ったと報告。

事務局長から、今後講習会で実施する試験の採点業務は、各主幹校にて実施してもらうこととしたと報告。

エ. 教育支援委員会柔道整復師国家試験模擬試験部会

齊藤理事から、模擬試験問題の選定作業は順調に進んでおり、計画どおり11月から実施予定であると報告。

オ. 広報・調査委員会

大麻理事から、入学者の構成に関するアンケート調査結果の概要について報告。

カ. 柔道委員会

廣岡理事から、今年度柔道大会の開催結果及び来年度柔道大会の開催予定日（令和6年8月6日）を報告。

キ. 組織運営委員会

田中理事から、会員校名簿作成状況等について報告。

ク. 柔道整復師養成施設カリキュラム次期改訂に向けた検討会議

無し。

③第3号報告 関連団体

ア.（公財）柔道整復研修試験財団

無し。

イ.（一社）日本柔道整復接骨医学会

奥田理事から、8月30日に開催された今年度学術大会委員会の審議概要について報告。

ウ.（公社）日本柔道整復師会

奥田理事から、東京都柔道整復師会一部役員の辞任について報告。

エ.（一社）柔道整復教育評価機構

関口副会長から、本日理事会を開催すると共に、東京及び大阪の各2校計4校の第二次評価を実施予定と報告。

オ. 厚生労働省

事務局長から、柔道整復師法施行令の一部を改正する政令案に関するパブリックコメントについて、学校協会理事会意見を集約し提出したと報告。

カ. 文部科学省

関口副会長から、専門学校部分に係る学校教育法改正に関する情報について報告。

キ. 全国柔道整復師統合協議会

谷口会長から、本日午前中に行われた同協議会関係者との初会合の様子について報告。

④第4号報告 その他

事務局長から、関東高等学校選抜柔道大会広告掲載協賛の依頼があったと報告。

以上をもって議案の審議等を終了したので、16時10分、議長は閉会を宣し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した会長、副会長及び監事は記名押印する。

令和5年9月15日

会 長 谷 口 和 彦 印

副 会 長 関 口 正 雄 印

監 事 米 田 忠 正 印

監 事 清 水 尚 道 印

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

令和5年度 第7回理事会議事録

1. 開催された日時 令和5年10月19日（木） 15：00～17：00

2. 開催された場所 伊香保温泉 福一「輝峰」
群馬県渋川市伊香保町伊香保 香湯5-4

3. 理事総数及び定足数 総数 8名、定足数 5名

4. 出席理事数 8名

5. 議 題

協議・決議事項

第1号議案 来年度専科教員認定講習会主幹校・協力校選定の件

第2号議案 柔道整復研修試験財団に対する今後の対応の件

第3号議案 今年度（下半期）理事会等開催日程の件

第4号議案 委員会担当理事選任の件

報告事項

第1号報告 代表理事の職務執行報告及び行事予定（10月、11月）の件

第2号報告 各委員会等

第3号報告 関係団体

第4号報告 その他

6. 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認等

冒頭で事務局長より、理事総数8名中全員が出席で開催要件の定足数たる過半数5名以上の出席を充足していること、オンラインにより監事2名が出席していること、以上の二点を確認した。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款第32条の規定に基づき、谷口会長が議長として本会議の成立を宣した。

議事録署名人は定款第33条第2項の規定に基づき、谷口会長、関口副会長、米田監事及び清水監事とし、議案の審議に移った。

協議・決議事項

①第1号議案 来年度専科教員認定講習会主幹校・協力校選定の件

伊藤理事から、来年度専科教員認定講習会の主幹校・協力校について、

- ・関西地区は、主幹校：平成医療学園専門学校、協力校：明治東洋医学院専門学校及び関西医療学園専門学校
- ・関東地区は、主幹校：日本柔道整復専門学校、協力校：東京メディカル・スポーツ専門学校及び東京医療福祉専門学校

とする選考案を説明。

続けて同理事から、東京医療福祉専門学校に事前説明を行った際、協力校引き受けについては承諾するが、3年後の主幹校は難しいとの発言が同校よりあったことを報告。

審議の結果、東京医療福祉専門学校に対し2年間の協力校引き受けを正式に依頼することも含め、伊藤理事案を過半数の賛成で可決した。

なお、正式依頼を行う前に、齊藤理事より東京医療福祉専門学校学校長に別途説明を行うこと、また廣岡理事より平成医療学園専門学校に主幹校引き受けにあたり学校運営上の支障がないか確認を行うこと、を理事会は決定。

②第2号議案 柔道整復研修試験財団に対する今後の対応の件

谷口会長及び関口副会長から、柔道整復研修試験財団を巡る動きについて報告。

続けて谷口会長から、同財団に対して敵対するのではなく話し合いを継続していきたいと提案。

理事会は、審議の結果、過半数の賛成で本提案を可決した。

なお、谷口会長は次回理事会で、欠員となっている同財団認定実技審査委員会委員の推薦者について諮りたいと発言。

③第3号議案 今年度（下半期）理事会等開催日程の件

事務局長から、今年度下半期理事会等の開催日程案を説明。審議の結果、例年12月に開催している会員協議会を3月の臨時総会時に併せて開催することとし、過半数の賛成で本案を可決した。

④第4号議案 委員会担当理事選任の件

谷口会長から、担当委員会が無任所の奥田理事に、教育支援委員会専科教員認定講習部会を担当してもらい、これまで同部会担当だった伊藤理事は副担当として引き続

き関わってもらふ案を説明。審議の結果、過半数の賛成で本案を可決した。

報告事項

①第1号報告 代表理事の職務執行報告と行事予定（10月、11月）の件

谷口会長及び関口副会長から、10月及び11月における職務の執行状況等を報告。
事務局長から、10月及び11月の各委員会並びに学校協会等諸行事の予定を報告。

②第2号報告 各委員会等

ア. 教育支援委員会教科書部会

齊藤理事から、作成中の「柔道」教科書は来年3月に完成予定、また学校協会監修教科書の改訂の方向性については、今後の理事会に諮る予定と報告。

イ. 教育支援委員会教員研修等部会

伊藤理事から、来年度開催の教員研修会プログラム内容の検討状況について報告。谷口会長は、今後の理事会で具体的に議論していきたいと発言。

ウ. 教育支援委員会専科教員認定講習部会

伊藤理事から、講習会修了試験の結果について、また受講生に実施した講習会アンケート調査の結果について報告。

エ. 教育支援委員会柔道整復師国家試験模擬試験部会

齊藤理事から、今年度模擬試験の受験予定者数は昨年度より若干減っていると報告。

オ. 広報・調査委員会

大麻理事から、今月17日に同委員会を開催し、専科教員認定講習会のPR方法及び入学生の構成に関するアンケートの調査手法について検討を行ったと報告。

カ. 柔道委員会

廣岡理事から、9月21日に同委員会を開催し、今年度柔道大会の反省事項について検討を行ったと報告。

キ. 組織運営委員会

田中理事から、同委員会において検討継続中のため、研修会の開催を3月に先延ばししたいと報告。

ク. 柔道整復師養成施設カリキュラム次期改訂に向けた検討会議

谷口会長から、厚生労働省に対する柔道整復師学校養成施設カリキュラム等改善検討会開催の要望書案について説明。

③第3号報告 関連団体

ア. (公財) 柔道整復研修試験財団

谷口会長及から、同財団評議員会で報告のあった柔道整復師国家試験受験者数の推移及び今年度国家試験日程について報告。

イ. (一社) 日本柔道整復接骨医学会

伊藤理事から、今年度学術大会のシンポジスト選考状況について報告。

ウ. (公社) 日本柔道整復師会

無し。

エ. (一社) 柔道整復教育評価機構

関口副会長から、今年度第二次評価受審校の評価検討会議を、東京と大阪で11月に開催すると報告。

オ. 厚生労働省

無し。

カ. 文部科学省

関口副会長から、学校教育法改正に関する動向について報告。

④第4号報告 その他

無し。

以上をもって議案の審議等を終了したので、17時、議長は閉会を宣し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した会長、副会長及び監事は記名押印する。

令和5年10月19日

会 長 谷 口 和 彦 印

副 会 長 関 口 正 雄 印

監 事 米 田 忠 正 印

監 事 清 水 尚 道 印

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

令和５年度 第８回理事会議事録

１．開催された日時 令和５年11月17日（金） 13：50～15：40

２．開催された場所 全国柔道整復学校協会事務局
東京都港区浜松町１－６－２丸神ビル１階

３．理事総数及び定足数 総数 ８名、定足数 ５名

４．出席理事数 ８名

５．議 題

協議・決議事項

第１号議案 次期カリキュラム改訂に向けた検討の件

第２号議案 委員会委員候補者（柔道整復研修試験財団）推薦の件

第３号議案 次年度専科教員認定講習会受講資格の件

報告事項

第１号報告 代表理事の職務執行報告及び行事予定（11月、12月）の件

第２号報告 各委員会等

第３号報告 関係団体

第４号報告 その他

６．議事の経過及びその結果

（１）定足数の確認等

冒頭で事務局長より、オンラインによる出席を含めて理事総数８名中全員が出席であること、したがって開催要件の定足数たる過半数５名以上の出席を充足していることを確認した。

（２）議案の審議状況及び議決結果等

定款第32条の規定に基づき、谷口会長が議長として本会議の成立を宣した。

議事録署名人は定款第33条第２項の規定に基づき、谷口会長、関口副会長及び米田監事とし、議案の審議に移った。

協議・決議事項

①第1号議案 次期カリキュラム改訂に向けた検討の件

谷口会長から、11月14日に行った厚生労働省医政局医事課担当官（以下、「厚労省担当官」という。）との次期カリキュラム改訂要望に関する打合せ概要について、理事会提出資料に基づき報告。

理事会では、

- ・会員校に対して、現段階の学校協会としての方針を説明しておく必要がある
- ・厚労省担当官が教員問題に関心を持っている状況下、将来の教員養成について現在の講習会方式から課程設置への学校協会の方針についてアピールできる良い機会になる

等の議論があり、続けて同会長から今後の検討の進め方について、

- ・厚労省担当官が求める要望書については、カリキュラム内容の変更等は齊藤理事に、それ以外のガイドライン改正案や改正理由等については伊藤理事に、それぞれ作成を担当してもらう
- ・これ以外にも、教員養成や制度に関する検討が必要と考えられるが、その振り分けや特別委員会の設置等については、来月の理事会で改めて議論したい

と提案。

理事会は、審議の結果、過半数の賛成でこれ等提案を可決した。

なお、議論の最後に大麻理事から、東洋療法学校協会とのカリキュラム改訂に向けた共闘を問われ、谷口会長から今回は柔道整復師単独で行うと説明。

②第2号議案 委員会委員候補者（柔道整復研修試験財団）推薦の件

谷口会長から、高山前理事の辞任に伴い空席になっている柔道整復研修試験財団理事等のポストに大麻理事を、また併せて、同財団調査委員会委員に明治東洋医学院専門学校三澤校長を、それぞれ推薦したいと説明。

理事会は、審議の結果、過半数の賛成でこれ等提案を可決した。

③第3号議案 次年度専科教員認定講習会受講資格の件

伊藤理事から、大学院での科目等履修生による専科教員資格者の輩出や、受講資格が5年以上の実務経験となったことから、今年度の専科教員認定講習会（以下、「講習会」という。）では受講生が著しく減少したこと、また、厚生労働省が発出した指定規則改正に関するQ & Aでは、受講資格を講習会終了年度で5年の実務経験を有することで受験可能と解釈できることから、11月14日に開催した専科教員認定講習部会（以下「部会」という。）で議論を行い、次年度は規程を改正し受講資格を4年以上の実務経験とすることに意見が纏まったので、本理事会に諮るものと説明。

理事会では、

- ・教員養成課程設置に向けて今後議論を進めていく上で、本方針はここ1、2年の対応策として検討すべき
- ・荒天等を考慮して、講習会会期の延長も考えてみてはどうか
- ・単に受講資格だけでなく中身も少し見直し、より良い教員をつくっていくための方策として考えるべき
- ・学校協会が実施する質の高い講習会への受講を促す観点から、講習会の受講資格を5年から4年に変更する意義はある

との議論があり、審議の結果、実務経験の定義と講習会会期の在り方については部会における今後の検討課題とし、過半数の賛成で本提案を可決した。

報告事項

①第1号報告 代表理事の職務執行報告と行事予定（11月、12月）の件

谷口会長及び関口副会長から、11月及び12月における職務の執行状況等を報告。

事務局長から、11月及び12月の各委員会並びに学校協会等諸行事の予定を報告。

谷口会長から、会員校に次期カリキュラム改正等直近の状況を報告するため、12月理事会終了後に会員協議会を開催したいと提案があり、Zoom配信方式により学校協会事務局を主会場として開催することを理事会は了承。

②第2号報告 各委員会等

ア. 教育支援委員会教科書部会

齊藤理事から、作成中の「柔道」教科書予定販売価格案について、また来週部会を開催し、現行の学校協会監修教科書の今後の取扱いについて検討する予定と報告。

イ. 教育支援委員会教員研修等部会

伊藤理事から、来年度教員研修会の開催準備状況について、また教員研修会で記録した講演動画の活用方法及び再来年度以降の開催地選定について次回以降の理事会に諮る予定と報告。

ウ. 教育支援委員会専科教員認定講習部会

伊藤理事から、11月14日に開催した部会の審議内容について報告。

エ. 教育支援委員会柔道整復師国家試験模擬試験部会

齊藤理事から、今年度模擬試験の受験参加状況について報告。

オ. 広報・調査委員会

大麻理事から、昨年度に引き続き今年度も、鍼灸柔整新聞に専科教員認定講習会の開催広告掲載を計画していると報告。理事会はこれを了承。

カ. 柔道委員会

無し。

キ. 組織運営委員会

田中理事から、会員校名簿作成状況等について報告。

③第3号報告 関連団体

ア. (公財) 柔道整復研修試験財団

無し。

イ. (一社) 日本柔道整復接骨医学会

奥田理事から、今年度学術大会におけるシンポジウム要旨について報告。

ウ. (公社) 日本柔道整復師会

無し。

エ. (一社) 柔道整復教育評価機構

関口副会長から、第二次評価作業の進捗状況について報告。

オ. 厚生労働省

無し。

カ. 文部科学省

関口副会長から、専門学校部分に係る学校教育法改正に関する情報について報告。

④第4号報告 その他

事務局長から、兵庫県及び神奈川県柔道整復師会より賀詞交歓会招待状が届いていることを報告。理事会は、兵庫県は廣岡理事、神奈川県は関口副会長が、それぞれ会長代理として出席することを了承。

続いて事務局長から、富山県柔道整復師会より環境問題に配慮し賀状を欠礼する旨の葉書が届いていることを報告。理事会は、来年度賀状の取扱いについて東洋療法学校協会と歩調を合わせることとした。

以上をもって議案の審議等を終了したので、15時40分、議長は閉会を宣し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した会長、副会長及び監事は記名押印する。

令和5年11月17日

会 長 谷 口 和 彦 印

副 会 長 関 口 正 雄 印

監 事 米 田 忠 正 印

令和5年度 第1回教育支援委員会 教科書部会 議事録

日 時 令和5年9月14日（金）14：00～15：30
会 場 （公社）全国柔道整復学校協会 / ZOOMによるオンライン会議
出席者 11名

議題1 柔道教科書の初稿について

- ・教科書の作成は講道館監修のもと、学校協会柔道委員の湊谷先生、早川先生、米女先生を中心とし埼玉県柔道整復師会とドクターから助言をいただきながら行われた。作成当初は教科書の内容を柔道整復師養成校の学生向けとしていたが、最終的に初段を取得するための一般向けの内容に変更したうえで完成に至った。本教科書には動画資料も含まれている。完成した初版を、9/25（月）の週に各校に発送するので確認をお願いしたい。内容についてはすでに講道館に確認いただき了承をいただいているため、今回は「てにをは」と誤字脱字の確認をメインをお願いしたい。初稿を運用したうえで修正の必要が出てきた場合は、精査の上第2稿以降に反映していく。また動画資料については、今後他の教科書に活かしていけるかどうかも含めた視点で確認いただきたい。確認の締め切りは10/17（火）とし、指摘がある場合は担当者あてにメール添付にて伝えていただく。※担当者のメールアドレスは、発送した教科書に同封してある案内状に記載してある。

議題2 その他（今後の教科書の改訂の方向性について）

- ・公益社団法人全国柔道整復学校協会（以下『学校協会』という）監修の教科書は、発行当初は柔道整復学理論編の1冊のみであったが、その後徐々に増えていき、平成30年のカリキュラム改訂の際に新たに発行されたものを合わせると、現在19冊の教科書が学校協会監修のもと発行されている。柔道整復師国家試験（以下『国家試験』という）は柔道整復師国家試験出題基準（以下『ガイドライン』という）をベースに問題作成されるのが基本あり、教科書から問題が出題されるわけではないが、現状は教科書ありきの出題になっている傾向がある。ガイドラインがありながらも学校協会監修の教科書があることで、教科書の記載内容が試験委員の問題作成における一つの指標になっていることが考えられる。問題作成は最終的に試験委員の裁量に委ねられているため、結果的にガイドラインありきの国家試験なのか、教科書ありきの国家試験なのかが明確でない現状

となっている。

そのような背景の中で、現行の教科書をガイドラインや出題された国家試験問題に寄せる形で改訂し継続運用使用していくべきなのか、ガイドラインに沿った内容の含む書籍を学校協会の推薦書として運用していくべきなのかを論点とした検討を教科書部会で行っている。

全国共通の教科書の存在は、各校ごとの教育内容の乖離を防ぐための一つの指標となっていると考えられる一方で、教科書に記載されている内容は国家試験に出題される可能性があるため、記載内容は全て教え込まなければならないという教員の意識を生んでいるとも思われる。これが現行カリキュラムの2750時間、99単位の縛りの中で、積み込み型教育の促進につながっているということが懸念されている。

本来はガイドラインに沿った国家試験問題が作成されることを前提とし、学生の学力に応じた書籍を各校が選び教育に活用していくのが理想であると思われる。しかし、学校協会監修の教科書がなくなることには教育の指標を失うという不安要素もあるため、教科書の在り方については、学校協会として推薦図書をあげることのメリットとデメリットを精査しながら今後も継続検討していくこととする。但し、柔道整復教育の根幹となる「柔道整復学・理論編」については、学校協会で責任を持ち今後も継続的に修正及び改訂を行い、よりよい教科書を学校協会監修のうえで作成していく必要がある。

今回の会議は年内に対面にて実施したいと考えている。今回の会議までに、各校で専門基礎科目を教授している先生方から、教科書の内容やその必要性に関する意見を聴取しておいていただきたい。また以前行った教科書の使用に関するアンケートを、必要に応じ再度行うことも検討していく。

以 上

また、現在教科書のデジタル化（医書.jpを活用）についても同時進行中であるため、医書.jpを活用した推薦図書の運用可能かどうかについても合わせて検討していく。

以下に部会で上がった意見を簡条書きで示す

- ・解剖学の教科書を例に挙げると、1冊でガイドラインを網羅している書籍は見当たらなかった。

教科書改定については、各分野の専門の先生方の協力を必要とし、1冊の改定に少なくとも2～3年の期間が必要となるため、その観点からも推薦図書の必要性を考えていく。

令和5年度 第2回教育支援委員会 教科書部会 議事録

日 時 令和5年11月21日（火）14：00～15：30
会 場 （公社）全国柔道整復学校協会
出席者 12名

【議題】 今後の学校協会監修教科書の教科書部会における取り扱いについて

・前回会議の議題2の続きとなる。

前回会議の最後に三澤部会長より、各校で専門基礎科目を教授している先生方から、教科書の内容やその必要性に関する意見を聴取してほしいとの話が合ったことを受け、各校における意見の確認を行った。

結論としては、現時点では学校協会監修の教科書は残していく方向でまとまったが、現在行われているカリキュラム改訂作業が終わり、実際に新カリキュラムが施行された際に改めて推薦図書への移行について検討していくこととなった。

また教科書は残しておく前提という中で現時点での大幅な改定は、作成中のコアカリキュラムの内容と乖離してしまうことも懸念されるため、早急に改訂が必要な教科書を精査し、必要に応じた改訂とマイナーチェンジによる対応を行い、大改訂をするかどうかも含め新カリキュラム完成まで様子を見ることとした。

今回の会議にて現時点で改訂の必要があるものとしてあがったのは、外科学と解剖学（図の変更のみ）の2点であり、次回以降の会議で教科書の改訂について、どのように進めていくかを改めて検討していくこととした。

以下に各科目の教科書の取り扱いについての議論の内容を記す。

○専門基礎（基礎医学：解剖、生理、衛生、病理）

【解剖学と生理学について】

・各校で教科書をベースとしながらも、他の書籍でフォローしている学校が多く、卒業しても使える書籍として考える上では推薦図書にしてもいいのではとの意見が上がった。特に生理学の第4版については、第3版からの改定において編集に携わった先生の意図とはやや違い基礎的な内容をわかりやすく伝えるような内容ではなくなってしまっている現状がある。一方で解剖学については、図についての改善の余地はあるものの、全体的には系統解剖学としてのまとまりが良く、使い勝手は決して悪くないと

の意見であった。

【衛生学、病理学について】

- ・ 現行教科書のボリュームが程よくまとまっており、市販の書籍よりも使いやすい形になっているため、現行の教科書が維持できればとの意見であった。

○専門基礎（臨床医学：一般臨床、リハビリ、外科、整形）

【一般臨床医学】

- ・ 一般臨床医学は総論と各論が程よくまとまっており、使い勝手は市販の書籍よりもよい。市販の内科学は各論がメインとなっておりボリュームも現行教科書より多くなってしまうため現行教科書が維持できればとの意見であった。

【リハビリテーション医学】

- ・ 国家試験の内容と沿っていないところがあるが、現時点では教科書内容が適切でないのか、国家試験問題自体がイレギュラーなのかの判断ができないため現状維持でいいのではないかととの意見であった。

【外科学】

- ・ 最後の改訂が2012年となっており、内容も現状と合わないものが出てきているため早急に改定する必要があるのではとの意見であった。

【整形外科】

- ・ 特に卒業後も必要とされる科目であり、標準整形外科であれば卒業後も現場で使うことができ、内容を抜粋すれば他の臨床系科目と違い推薦図書として授業を実施することも可能ではないかととの意見であった。

○専門（柔道整復学理論編、柔道整復学実技編）

【柔道整復学理論編】

- ・ 現在検査法についての動画がすでに教科書に取り入れられているが、今後はその他の動画（骨折や脱臼の整復）についても、順次組み込んでいけるように検討していく。

【柔道整復学実技編】

- ・ 現在使用している第2版の教科書を最後に改定は行わず今後学校協会としての監修は行わない。現教科書は、「柔道整復学理論編 第6版」と連動しており、第7版を使用している2年生以下の学年は基本使用していない。

以 上



令和5年度 第2回教育支援委員会 教員研修等部会 議事録



日 時	令和5年10月24日（火）14：00～16：00
会 場	（公社）全国柔道整復学校協会、ZOOMによるオンライン併用会議
出席者	10名

議 題

- （1）第65回教員研修会について
- （2）第66回教員研修会について
- （3）その他

配布資料

- （1）第65回教員研修会
 - 1.参加人数について 2.プログラム 3.参加者アンケート 4.協賛広告企業について
 - 5.研修会報告書について 6.教員研修会準備スケジュール
- （2）第66回教員研修会
 - 1.会場について 2.研修会会場平面図 3.講演タイムテーブル
 - 4.令和6年度教員研修会の参加アンケート（人数調査）について

会議内容

定刻となり伊藤担当理事の挨拶後、議事へと進行した。

- （1）第65回教員研修会について

令和5年度教員研修会について、主幹校である九州医療スポーツ専門学校の桑野先生から、資料に沿って以下の説明がなされた。

<研修会の報告>

- ・参加人数について、研修会は会員校281名、非会員校54名、合計335名の参加。懇親会は200名の参加であった。
- ・プログラムと参加者アンケートについて、資料2・3に集約、アンケートについては来年度以降の参考にしていただきたい。Google フォームでQRコードからのアンケートを実施、200名ほどの回答であったため来年度はもっと回答率が上がるための

工夫が必要である。

- ・ポスターセッションについて、助成金交付発表5題、一般公募発表2題、合計7題であった。
- ・協賛広告企業について、広告は21社990.000万円、出展は15社17ブース572.000円、合計1.562.000円の収益であった。
- ・北九州市開催助成金について、申請は終了しており100.000円が11月10日に振込み予定ある。
- ・研修会報告書について、資料5にまとめているのでご確認いただきたい。
- ・教員研修会準備スケジュールについて、今年度の研修会で実施したものを一覧（資料6）としてまとめているので今後の参考にしていきたい。

<質疑応答>

葉山部会長より部員へ質問を募った。

- ・広告は研修会にとって今後重要になるかと思うが、どのようにして集められたのか。
→部会から頂いたリストに案内を郵送、また本校に関わりのある企業へ電話や案内を郵送。

学校と関りのある業者からとても協力的に協賛広告をいただいた。

また、部会の方でも関わりのある企業を紹介してもらいスムーズに協賛をいただいた。

- ・協賛企業の反応はどうか。
→出展企業に関しては当日とても盛り上がっていたこともあり、来年度も出展したいという連絡をいただいている。
- ・協賛広告の上限や企業の基準はあるのか。
→出展企業は会場のキャパ、広告は特になし。
今年度の基準は、昨年の部会の中で、医療機器関係や書籍関係。接骨院や人材紹介企業は除く。
今後は、広告収入は研修会の大きな要となるため、基準を広げていくことも検討すべきである。
- ・今年度の準備の中で来年度以降の改善点などあるか。
→協賛広告について、今後は主幹校だけではなく部会が中心となって協賛広告を集めると研修会の収入源も増えるのではないかと。今年度も部会の先生方が協力してくれたおかげで沢山の協賛が集まったので、部会で1人3・4社ほど集めると100万円近い収益となり、主幹校の負担も軽減できるのではないかと。
- ・VRに関してネット環境の確認や事前対応がされたか。
→講演でのMacが使用できなかったことについて、業者とも事前にMacを使用することの確認をしており、当日も約2時間前にパソコンの動作確認を実施。当日Macが

反応しなかった。

今後はそのような事態も想定の上で対応をする必要がある。

- ・当日、学生を起用されており教職員との連携もとてもよかった。学生の反応はどうか。

→日頃の成績や取り組みなどで選抜しているため、意欲の高い学生ということもあるが、研修会での教員の姿をみて、出展業者や講演者の話を聞くこともでき、とても有益な情報を得ることができた。この中から教員を目指そうと考える学生が出てきてくれることが望ましい。

- ・学生は何名参加されたのか。

→10名が参加。駅からの案内、受付、質疑応答のマイク係などとても活躍してくれた。

(2) 第66回教員研修会について

令和6年度教員研修会について、主幹校である新宿医療専門学校の開口先生から、資料に沿って以下の説明がなされた。

<進捗状況>

- ・研修会の日程と会場について、令和6年9月21日（土）22日（日）に東京保健医療専門職大学で決定。東京メトロ東西線の東陽町駅から約10分。
- ・会場の平面図について、開会式などメイン会場として1階の講堂を使用。ポスターセッション、企業展示を1階ラウンジと運動室で検討中。2階は201～203講義室を来賓控室、講演者控室、主幹校控室として使用。204講義室にクロークを設置。5階は511治療室、513治療実習室を実技セッションで検討中。6階の611大教室は100名ほど収容可能で講演に使用予定。
- ・懇親会会場は、ホテルメトロポリタン エドモンドで開催。移動があるためシャトルバスを手配するようにしているが、事前にバス利用者の人数の把握などが必要である。研修会場から駅まで10分ほど歩くが、東西線で懇親会会場まで行くことも可能である。
- ・伊藤担当理事より
バス移動については、来賓の方を除いては、事前申込制で料金をいただくことも必要。懇親会費について、東京開催では例年の価格での開催が厳しく、懇親会費の値上げという議論もあったが、1人10,000円の懇親会費とし、その費用で対応いただいたホテルメトロポリタン エドモンドで実施をするが、新宿区での実施、また懇親が目的であることを周知してお願いすることが必要であるとの説明がされた。
- ・講演タイムスケジュールについて、例年と変わって会場の関係で開会式終了後、そのまま講堂（1F）と611大教室（6F）に分かれて、講演を実施することになる。そのため移動時間を考える必要があるため、開会式で例年の4名に頂戴する来賓祝

辞を2名に減らすことを検討している。

開会式を講堂（1F）と611大教室（6F）に分かれてモニターでの実施も検討することとなった。

・講演内容については下記の通りで実施予定。

「1日目」

講演A-1-1（90分）講演会形式

「読解力を鍛えるコツは速く読み解く力と6つの技能」（仮）

難関大受験専門塾「現論会」 代表 柳生 好之

講演B-1-1（90分）講演会形式

「効果的な初年次教育について」（仮）

昭和大学歯学部歯科保存学講座歯科理工学部門 講師 片岡 有

分科会（70分）

第1テーマ 講演会形式

「学生に対する入学前教育」（仮）

山口 絢香

第2テーマ 講演会形式

「社会人としてのマナー・ソーシャルスキル」（仮）

JAL客室乗務員チーフパーサー ビジネスキャリアサポート所属 阿部 希

第3テーマ 実技形式

「超音波エコーの指導方法」（仮）

演者未定（株式会社エス・エス・ビー様に協力依頼済み）

第4テーマ 実技形式

「整備シミュレータを用いた指導方法」（仮）

株式会社フラディス 高須 勇斗

「2日目」

講演A-2-1（85分）講演会形式

「教育に生かすコミュニケーション技術」（仮）

東京工芸大学 芸術学部長・教授 大島 武

講演B-2-1（85分）ワークショップ形式

「効果的な初年次教育について」（仮）

昭和大学歯学部歯科保存学講座歯科理工学部門 講師 片岡 有

講演A-2-2（85分）講演会形式

学校協会の取組みとして、カリキュラム、臨床実習、第三者評価について講演予定

→2日間の講演内容について全員が異議なく承認した。

- ・ポスター発表の依頼について、助成金交付発表は時期をみて、学校協会事務局に一覧をいただく。
- 一般公募発表は参加アンケート（人数調査）と同時期に募集をする。
- ・令和6年度教員研修会の参加アンケート（人数調査）について、今年度同様に2月頃に実施し人数の把握をする予定。プログラムも一緒に案内。案内する際はgoogleフォームを使用する。

<質疑応答>

葉山部会長より部員へ質問を募った。

- ・1階講堂のキャパはどれくらいか。

→最大400名。5人かけの椅子があり全員座って400名となる。

- ・そのほかの会場のキャパはどれくらいか。

→611大教室は100人、実技室は40人。

そのため、分科会の実技形式は参加者を各学校で限定するなどの工夫が必要である。

- ・講演内容について片岡先生に「1日目」講演B-1-1 講演会と「2日目」講演B-2-1 ワークショップ形式となっているが、2日目のワークショップを「1日目」の分科会にもってきてはどうか。

→議論の結果、主幹校に一任することで全員が承認した。

- ・懇親会で一部の先生だけ席があるのはどうか。懇親会の今後の実施方法はどうか。

→部員からは、一部座席がある事には特に気にならないという意見であった。

その理由に、コロナで2年ほど全員着座の年度もあったが、懇親を図る上では立食が望ましい。

来賓や演者に座席があると場所が分かりやすい。運営側も誘導や対応がしやすい。

主幹校がスムーズに動ける、配慮が出来る実施方法が望ましい。

※懇親会の実施方法、バスの件については、準備スケジュールの都合上次回部会で
諮ることは難しいため、担当理事、部会長、副部会長、主幹校に一任し、2月の
部会で報告することになった。

- ・ポスター発表について今年度は質疑応答のみだったが来年度どうするか。

→今後検討する。

- ・伊藤担当理事より教員研修会の周知方法について、教員研修会の専用のホームページを作成し、いつでも研修会の内容について見れるようにしてはどうか。

→部会の先生方の意見を聞いたところ、全員が異議なく承認した。

(3) その他

- ・ 第67回以降の主幹校について、現在は決まっていない。

部会の方で心当たりのある学校や先生に相談してみてもどうか。

決まらなければ、研修等部会で主催する方法もある。

学校協会として会員校にアンケートをとり3～5年後くらいの主幹校の希望をとってみてはどうかとの意見があがり、全員が異議なく承認し、伊藤担当理事に理事会に諮っていただくこととした。

次回部会の開催日時について2月15日（木）14時と確認し閉会した。

令和5年度 第5回教育支援委員会 専科教員認定講習部会 議事録

日 時 令和5年11月14日（火）14：00～15：40
会 場 （公社）全国柔道整復学校協会
出席者 10名

議 題

- (1) 次年度の専科教員認定講習会について
- (2) 今後の事業内容について
- (3) 専科教員認定講習部会のスケジュールについて
- (4) その他

配布資料

- (1) 柔道整復師専科教員認定講習会実施規程
- (2) 柔道整復師専科教員認定講習会教育内容および単位取得ならびに修了認定に関する細則
- (3) 令和6年度柔道整復師専科教員認定講習会実施要領
- (4) 令和6年度柔道整復師専科教員認定講習会受講試験実施要項
- (5) 専科教員認定講習会会計運用方針（案）
- (6) あはき師及び柔道整復師養成施設における指定規則等の改正に関するQ&Aの送付について
- (7) 令和6年度専科教員講習会実施予定スケジュール（予定）
- (8) 令和5年度柔道整復専科教員認定講習会アンケート結果報告書

会議内容

会長ならびに副会長、新担当理事の挨拶のあと、前担当理事の司会進行で議題の検討を開始した。

- (1) 次年度の専科教員認定講習会について

東京会場：主幹校 学校法人花田学園 日本柔道整復専門学校

協力校 学校法人滋慶学園 東京メディカル・スポーツ専門学校

協力校 学校法人常陽学園 東京医療福祉専門学校

大阪会場：主幹校 学校法人平成医療学園 平成医療学園専門学校
協力校 学校法人明治東洋医学院 明治東洋医学院専門学校
協力校 学校法人関西医療学園 関西医療学園専門学校

(2) 今後の事業内容について

①受講対象者について

大学院での科目等履修生による専科教員資格者の輩出や受講資格が5年以上の実務経験となったことから、令和5年度の専科教員認定講習会では受講生が著しく減少した。あはき師及び柔道整復師養成施設における指定規則等の改正に関するQ&Aでは、受講資格を認定講習会終了年度で5年の実務経験を有することで受講できるように解釈できることから、次年度は規程を改正して実施することになった。

②受講試験について

令和5年度より解答用紙、採点は主幹校または実施校が準備することとした。

③修了試験について

令和5年度より解答用紙、採点は主幹校または実施校が準備することとした。

④講習会の修了認定について

令和5年度の専科教員講習会修了試験で、再試験受験該当者が現れた。配付資料(4)の実施要領において、修了試験に不合格の者は当該年度に限り再試験を受験できるとあるが、再試験は1回限りとし、次年度にまたがる再試験受験該当者が現れる可能性も示唆されたが、次年度以降の再試験は明記せず、当該年度までの規程として留めておくこととした。

⑤令和6年度の受講試験実施要項について

受験資格は受講年の5月末日の時点で4カ年以上とすることとした。また新型コロナウイルス感染症予防の対策・指導は第5類感染症の対応とすることとした。

⑥令和6年度の修了試験作成料について

一律、1問につき¥1000とした。

(3) 令和6年度専科教員講習会実施スケジュールについて

令和6年4月15日（月）に第1回専科教員認定講習部会で受講試験問題の策定を実施する。

同 上 5月14日（火）に第2回専科教員認定講習部会で合否判定会議の資料として受講試験問題の再精査を実施する。

同 上 6月上旬に東京会場・大阪会場の開講式を実施する。

同 上 9月上旬に第3回専科教員認定講習部会で各会場毎の修了試験問題の策定を実施する。

同 上 10月上旬に第4回専科教員認定講習部会で合否判定会議の資料として修了試

験問題の再精査を実施する。

同 上 10月下旬に東京会場・大阪会場の閉講式を実施する。

同 上 11月上旬に第5回専科教員認定講習部会で次年度の講習会について協議する。

同 上 令和7年1月中旬に第6回専科教員認定講習部会で受講試験問題作成について協議する。

(4) その他

- ・授業評価の結果に関して、各講師へのフィードバックの規程は無いが、大阪会場では振り返り作業を実施していることが、満足度の高さとして現れていると推察され、東京会場でも各講師へ授業評価をフィードバックして次回の講義に役立てることとした。

次回は12月中に各会場の主幹校と協力校の顔合わせを、東京会場は（公社）全国柔道整復学校協会会議室で、大阪会場は平成医療学園専門学校にて開催予定である。（各会場をオンラインで結び、合同会議とする可能性あり）



令和5年度 第3回広報・調査委員会 議 事 録



日 時	令和5年10月17日（火）14：00～16：00
会 場	（公社）全国柔道整復学校協会、ZOOMによるオンライン併用会議
出席者	9名

議 題

- (1) 前回委員会議事録の確認
- (2) 広報業務について
- (3) 調査業務について
- (4) その他

配布資料

1. 令和5年度第2回広報・調査委員会議事録 資料1
2. 会報誌第69号柔道整復学校協会会報誌掲載順リスト 資料2
3. 会報誌第69号裏表紙用専科教員認定講習会ポスター 資料3
4. 会報誌第69号会報誌目次（案） 資料4
5. 教員紹介リレー会報誌第67号掲載内容 資料5
6. 2023年度入学者の構成に関するアンケート調査 資料6
7. 令和5年度広報・調査委員会事業計画書 資料7
8. 令和5年度第4回広報調査委員会開催計画書（案） 資料7
9. 入学者の構成に関するアンケート調査の検討について 資料8

会議内容

冒頭、大麻担当理事から挨拶及び各委員から各校の近況の報告を行った。

- (1) 前回委員会議事録の確認

資料1を参照し、前回委員会の議事録の確認を行った。

- (2) 広報業務について

会報誌第69号（令和6年1月発行予定）について

- ①資料2を参照し、「わが街の見どころ聞きどころ」担当校の京都医健専門学校への依頼について確認した。編集後記は、森ノ宮医療学園専門学校の小笠原委員が担

当する。原稿の提出締切りは、12月中旬頃までとすることを確認した。

②資料3を参照し、裏表紙用の専科教員認定講習会の募集案内を確認した。裏表紙の掲載内容は、広報誌第68号（令和5年10月発行）と同じ内容とする。募集案内は、表紙色に合わせてピンク色に変更する。

③資料4を参照し、廣木委員長から目次案の確認を行った。

④佐藤委員会から次号の寄稿者の報告があり、日本医学柔整鍼灸専門学校の住吉泰之先生を予定しているとのこと。

卒業生のキャリア（ホームページ掲載）について

令和5年10月時点における新規加盟校が無いため、掲載の予定はなし。

(3) 調査業務について

令和5年度入学者の構成に関するアンケート調査について

資料6を参照し、大麻担当理事から会報誌第68号に掲載した調査報告について説明があった。

資料8を参照し、次年度の入学者の構成に関するアンケート調査についてアンケート項目、選択肢などについて検討を行い、各委員から以下の意見が挙がった。

- ・性別の項目について、男女の二択から選択肢を追加して変更する。
- ・専門実践教育訓練給付金の項目について、質問内容の見直し。
- ・スポーツ経験の項目について、質問内容の見直しと選択肢の追加。
- ・勤務・アルバイト経験の項目について、各選択肢の勤務時間を削除して選択肢を減らす。
- ・複数回答の項目を単一回答に変更して複数回答の項目を減らす。
- ・項目の順番の見直しと質問文の修正。
- ・柔道整復師の認知に関する項目（項目10～項目12）については削除せず継続。
- ・柔道整復師の仕事の魅力についての項目の追加。

本日の委員会終了後も引き続き委員各自が検討することとなり、10月末日までに鹿庭副委員長へメールにて提出することとなった。

鹿庭副委員長が意見を集約し、次年度のアンケート案を作成する。そのアンケート案を基に、次回の委員会において継続して検討することとなった。

また、大麻担当理事から柔道整復師の普及、啓発に繋がる広報、調査事業の新規実施についての意見があり、委員会において継続して検討、審議することとなった。

(4) その他

専科教員認定講習会PR広告の掲載について

大麻担当理事から今年度も継続して鍼灸柔整新聞へ掲載することの報告があった。
掲載回数は、令和6年2月10日、令和6年3月10日の2回を予定している。

次回広報・調査委員会について

令和5年度第4回広報・調査委員会は、令和6年1月16日（火）14時から16時に
ZOOMによるオンラインにて開催する。

議題として、次年度の事業計画について、会報誌第70号について、入学者の構成に
関するアンケート調査について、他を予定している。



「4年ぶりに本来の姿で開催！京都・祇園祭」

京都医健専門学校
柔道整復科 青山 武春

京都医健専門学校は京都市中京区に2005年に開校し19年目を迎えました。京都市のほぼ中央に位置し、御池通、烏丸通、河原町通、四条通沿いには、官公庁、政治・経済団体、金融機関、商店などが集中しており、観光・娯楽・ショッピングなどで賑わうとともに、京都市の産業・経済活動の中心となっています。堀川通沿いには、世界文化遺産に登録されている二条城が建ち、まちのシンボルとなっています。また、一步大通りを外れると昔は京都の中心であったといわれる「へそ石」のある六角堂をはじめ、重要文化財になっている京都文化博物館（別館）など観光名所はいくつもありますが、今回は何ととっても4年ぶりに本来の姿で開催されました「京都・祇園祭」をご紹介します。

「京都の夏の風物詩」と聞いて皆さんが思い浮かべるものは何でしょうか？川床やハモ料理、そして五山の送り火などがありますね。でもやはり一番は「祇園祭」ではないでしょうか？

東京の神田祭・大阪の天神祭に並ぶ日本三大祭りの一つとして、京都はもちろん関西の人、そして全国的にとっても有名なお祭りです。

7月に入ると、街を歩けば色々な所からコンチキチンのお囃子の音が聞こえてきたり、各山鉦町では宵山や巡行以外にも、山や鉦を見ることができるようですよ。烏丸御池の駅から学校まで通りでも、釘を一本も使わず、縄がらみの伝統技法で組み立てる「山建て」「鉦建て」が行われ、それが京都のまちなかのいたるところに山や鉦が姿を出現すると、私も学生も「ああ夏がやってきたなあ」と実感します。

今年も京都医健の前で祇園祭の山「鷹山」の“曳き初め”が行われました。「鷹山」は長く休山となっていたが、2022年に196年ぶりに後祭で巡行復帰を果たしました。鷹山の復活には京都医健専門学校も微力ながら関わらせて頂いています。現在、前祭で23基・後祭で11基の山鉦が建ちますが、ひととき勇壮な姿を誇ります。鷹山には本校の小林学校長はじめ教職員が行事に参加しました。京都の夏の風物詩を間近に感じられるのも京都医健専門学校の大きな特徴といえます。

熱気に包まれた祇園祭に興味が湧いたと思いますので、ぜひ京都へお越しください。またその時は学校にもお立ち寄り頂ける事を楽しみにしております。



★第5回★

教員紹介リレー



馬場仕込み

日本医学柔整鍼灸専門学校
住吉 泰之

(福島県出身)



～ 専門学生から柔道整復師へ ～

はじめに、執筆の機会を頂き感謝申し上げます。私が母校の日本医学柔整鍼灸専門学校（以下、日本医専）に入学したのは、とある出版業界に身を置く中で、エンジニアや執筆者に腱鞘炎をはじめとする身体の不調が多く、また年に数回行うイベントでの急性腰痛や捻挫などが起こり、手当を必要とする場面との遭遇があったため、身体のトラブルを解決できる資格を取ろうと決意して通勤路でもある高田馬場の日本医専に入学しました。

日本医専ではベテランの講師陣による熱血柔道整復実技や、解剖学の先生からの細胞・上皮・骨格・筋・臓器・神経への強烈な教鞭により学びに学んだ3年間を過ごしました。学校好きだったので、学園祭実行委員や学生募集スタッフも存分に行いました。また少しでも多く臨床現場を経験するべく最寄りの接骨院にて診療補助・受付バイトも出来る限り入りました。本当に充実した時間を学校と接骨院からご指導を頂いたおかげで第18回柔道整復師国家試験にて無事合格、免許を得ることが出来ました。そしてその年に父親がゴルフで胸部打撲、弟はマラソン大会の練習でハムストリングス損傷を起こし治療を施すことが出来ました。柔道整復師となって家族を助けることができたのは柔道整復師となって嬉しいエピソードです。そしてもう一つ、柔道整復師免許を目指すなかで次なる目標を持つことが出来ました。



出身校かつ勤務校
日本医学柔整鍼灸専門学校の校門前



学生時代 学園祭にて実行委員集合写真
(手前列・右から3番)

～ 専科教員講習へ ～

日本医専での最終学年3年生において、手厚い国家試験対策を受け受験生同士での学習も進むなかで今後も受験を支えていきたいという気持ちが芽生えました。そんな気持ちを受け取って頂いた日本医専から、卒業してすぐにチューターとして配置して頂き後輩の受験サポートをしながら専科教員講習に入れる3年間（当時）の下積みを過ごしていきました。待ちに待った専科教員講習試験では100名を超える中から40人という倍率のなかで、なんとか合格しました。そして専科教員講習が始まりました。とにかく熱意がある受講生。手品からパントマイムをこなす芸達者な受講生。沖縄から飛行機で飛んできて週末の講習を学びにくる受講生。全国レベルの柔道家の受講生。そして酒好きの受講生（住吉）。40名は、それぞれの仕事を取り組みながらも毎週土日と共に学び、切磋琢磨しました。日曜講習の最後は5限目と称しての振り返り懇親会。懐かしい思い出として語り合えますので、教員研修会や同期会での再会は教員としての楽しみでございます。

～ 教員としての一日 ～

私の教員として日々を簡単に紹介します。昼間部担任のため朝通勤です。電車の混雑に揉まれて体調が万全とは言えない状態になりがちですが、授業前にやっておきたいことが一つあります。それは1枚目に掲げた写真の校門前での挨拶運動です。通勤事情や学生対応のため毎日とはなりません、できるだけ学生へ挨拶をして登校を迎えたいと思って実施しております。

授業においては、着任当初は学生に主体的に学んでもらうためアクティブラーニング形式を用いていました。近年ではスマートフォンを使っただの確認小テストを行い解答回収し、即座に正答率ふまえての解説を行っております。また自分自身が経験したことのある鎖骨骨折は印象的な外傷として講義を行っております。コロナ禍において、オンライン授業をこなしたためスライド技術の研修や、教室設備の充実がありました。私は発展途上中で、入学してくる学生らは中学・高校時代にオンライン化をしているため日々努力改善を心がけて追いつきたい所存です。放課後は会議やミーティング、授業資料づくり等がありますが、すき間を取って学生対応をしています。特にこの冬からは、受験生からの質問が増えるためにできるだけ動けるよう心掛けております。



アクティブラーニング講義



左鎖骨骨折 斜位レントゲン像

この記事を書くにあたって、私の印象について学生から聴取したところ「教科書をよく覚えている」「他の先生と親友のように仲がいい」「ネクタイがポイント」「猫好き」「日本酒」「いつも教室覗いている」など頂きました。ネクタイは講道館の柔道ネクタイやオリンピックネクタイ、アニマル柄などを用意して興味を持ってもらえるようにしております。さて教員・職員からは「卒業生の教員」「高田馬場の居酒屋案内」「色んなネクタイ」「非常勤とのパイプ」「良くも悪くも言いたいことが言える」「飲みすぎ注意」「暴走注意」「ある意味注意人物」…とだんだん未熟な点が挙がる次第でして、まだまだ研鑽が必要と感じております。そんなときに手を差し伸べる日本医専の教員・職員にはいつも感謝しております。

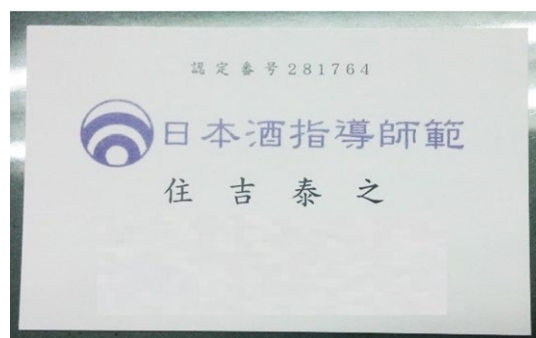
～ 酒好きから日本酒指導師範へ ～

前号教員紹介リレー走者の大川学園の岡村忠彦先生からのバトンとなるメッセージにて「新たな酒の楽しみ方を…」とお褒め頂いたご紹介を頂戴しました。私は20代半ばに酒好きとして目覚めてしまい、ビール祭り・地酒祭り・各種試飲会などに足を運んでおりました。その中でも日本酒が自分にとって馴染んでくるため思い切って勉強を致しました。酒造りを原材料から仕上がりまで学び、きき酒、和食との関連、歴史そして国内における日本酒市場にいたるまで、文化としての日本酒を体系的に2段階の学習と2つの試験を受験し、日本酒指導師範という呼称制度がある民間認定を得ることができました。この名称は唎酒師（利き酒師）とよく間違えられるのですが、唎酒師は主に日本酒の提供・販売をされる方が取られていらっしゃる資格になります。私が取得したのは飲み手側からの真剣な学習と思ってください。その知識から岡村先生をはじめ同期・同僚に酒を紹介している厄介者でございます。

さて、資格や名称の誤解は柔道整復師にもよくあることではありませんか？ 柔道整復師と他の医療職、または民間治療。そのような誤解が世間にもありますし、専門学校へ入学してくる学生にも見受けられます。初年次において骨と筋肉だけを覚えていくだけと思っていた学生、とくに高校からの新入生は、学習内容とのギャップに戸惑う学生も見受けられます。そんな認識の違いは意欲低下にもつながってしまうため、お酒で言えば日本酒と焼酎の違いのように、適切な柔道整復師の魅力をクリアにできるように資格の認識が必要かと思います。



第65回教員研修会 懇親会にて



日本酒指導師範 名刺

日本酒を学んで好きになった言葉があります。それは『醸成』です。簡単に言えば「か
もす」と言われる発酵を指す用語です。この言葉は時に転じて、様々な社会場面において散
見しますが人々の間に少しずつ特定の雰囲気や考え方などを形成することを意味する言葉
です。少しずつすなわち「根付かせる」ということです。柔道整復師の心・技・体の学び
は学生をはじめ社会に醸成されていくことを願いながら、いち教員として柔道整復師仕込
みに全力を注ぎたいと思います。拙文を最後まで味わって頂き誠にありがとうございました。

～ 次回は… ～

暖かさと健やかがあふれる先生、愛媛県松山市の河原医療福祉専門学校：水野信吾先
生へバトンにお繋ぎしたいと思います。首都圏にてご活躍の際にいつも私にお声がけ
を頂いておりましたが、第65回教員研修会（小倉）にてお会いした際に河原医療福祉
専門学校にて学科長として教鞭を取られていらっしゃいまして驚きました。水野先生
のエピソードはそのお人柄をじっくりと伺えることでしょう。さらなる教員紹介リレー
が深まることを祈念して締めくくりたいと思います。

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

正 会 員 校 要 覧

令和5年4月1日現在

都道府県		学 校 名	所 在 地	TEL FAX
北海道 2校	1	公益社団法人 北海道柔道整復師会 附属北海道柔道整復専門学校	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西18-1-15	011-642-0731 011-642-8455
	2	学校法人 滋慶学園 北海道ハイテクノロジー専門学校	〒061-1396 北海道恵庭市恵み野北2-12-1	0123-36-8119 0123-33-2234
岩手県 1校	3	学校法人 龍澤学園 盛岡医療大学校	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通3-3-4	019-652-1189 019-652-1198
宮城県 2校	4	学校法人 東北柔専 仙台接骨医療専門学校	〒983-0005 宮城県仙台市宮城野区福室3-4-16	022-258-6222 022-259-7511
	5	学校法人 赤門宏志学院 仙台赤門医療専門学校	〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻青葉33-1	022-222-8349 022-222-3797
福島県 1校	6	学校法人 平成医療学園 福島医療専門学校	〒963-8026 福島県郡山市並木3-2-23	024-933-0808 024-933-7887
群馬県 1校	7	学校法人 国際中央学園 中央スポーツ医療専門学校	〒371-0843 群馬県前橋市新前橋町21-16	027-253-1205 027-253-1230
埼玉県 2校	8	学校法人 大川学園 大川学園医療福祉専門学校	〒357-0016 埼玉県飯能市下加治345	042-974-8880 042-974-8884
	9	学校法人 呉竹学園 呉竹医療専門学校	〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-185-1	048-658-0001 048-658-0005
東京都 11校	10	学校法人 花田学園 日本柔道整復専門学校	〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町20-1	03-3461-4740 03-3461-4733
	11	学校法人 呉竹学園 東京医療専門学校	〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町16-12	03-3341-4043 03-3358-3976
	12	学校法人 敬心学園 日本医学柔整鍼灸専門学校	〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-18-18	03-3208-7741 03-3208-6488
	13	学校法人 エイジェック学園 スポーツ健康医療専門学校	〒130-0026 東京都墨田区両国4-27-4	03-3846-5151 03-3846-5152
	14	学校法人 滋慶学園 東京メディカル・スポーツ専門学校	〒134-0088 東京都江戸川区西葛西3-1-16	03-5605-2930 03-5605-2932
	15	学校法人 片柳学園 日本工学院八王子専門学校	〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404-1	042-637-3111 042-637-3112
	16	学校法人 創志学園 日本健康医療専門学校	〒111-0053 東京都台東区浅草橋3-31-5	03-5835-1456 03-5835-1457
	17	学校法人 都築科学学園 関東柔道整復専門学校	〒190-0012 東京都立川市曙町1-13-13	042-529-6660 042-529-6665
	18	学校法人 小倉学園 新宿医療専門学校	〒160-0017 東京都新宿区左門町5番地	03-3352-6811 03-3352-6816
	19	学校法人 西田学園 アルファ医療福祉専門学校	〒194-0022 東京都町田市森野1-7-8	042-729-1026 042-721-8411
	20	学校法人 常陽学園 東京医療福祉専門学校	〒104-0032 東京都中央区八丁堀1-11-11	03-3551-5751 03-3551-5752
神奈川県 1校	21	学校法人 呉竹学園 呉竹鍼灸柔整専門学校	〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2-7-24	045-471-3731 045-471-3732
静岡県 1校	22	学校法人 森島学園 専門学校浜松医療学院	〒434-0038 静岡県浜松市浜北区貴布祢232-3	053-585-1333 053-585-1661

都道府県		学 校 名	所 在 地	TEL FAX
愛知県 3校	23	学校法人 米田学園 米田柔整専門学校	〒451-0053 愛知県名古屋市中区枇杷島2-3-13	052-562-1210 052-563-6495
	24	学校法人 滋慶コミュニケーションアート 名古屋医健スポーツ専門学校	〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄3-20-3	052-238-3455 052-238-3465
	25	学校法人 葛谷学園 中和医療専門学校	〒492-8251 愛知県稲沢市東緑町1-1-81	0587-23-5235 0587-23-5237
石川県 1校	26	学校法人 木島学園 北信越柔整専門学校	〒920-0816 石川県金沢市山の上町5番5-2号	076-252-2171 076-252-2177
京都府 1校	27	学校法人 滋慶コミュニケーションアート 京都医健専門学校	〒604-8203 京都府京都市中京区衣棚町51-2	075-257-6507 075-257-6488
大阪府 7校	28	学校法人 関西医療学園 関西医療学園専門学校	〒558-0011 大阪府大阪市住吉区荻田6-18-13	06-6699-2222 06-6609-2118
	29	学校法人 明治東洋医学院 明治東洋医学院専門学校	〒564-0034 大阪府吹田市西御旅町7-53	06-6381-3811 06-6381-3800
	30	学校法人 平成医療学園 平成医療学園専門学校	〒531-0071 大阪府大阪市北区中津6-10-15	06-6454-1500 06-6454-1550
	31	学校法人 森ノ宮医療学園 森ノ宮医療学園専門学校	〒537-0022 大阪府大阪市東成区中本4-1-8	06-6976-6889 06-6973-3133
	32	学校法人 履正社 履正社国際医療スポーツ専門学校	〒532-0024 大阪府大阪市淀川区十三本町3-4-21	06-6305-6592 06-6305-1692
	33	学校法人 近畿医療学園 近畿医療専門学校	〒530-0047 大阪府大阪市北区西天満5-3-10	06-6360-3003 06-6360-3022
	34	学校法人 大阪滋慶学園 東洋医療専門学校	〒532-0004 大阪府大阪市淀川区西宮原1-5-35	06-6398-2255 06-6398-2225
兵庫県 1校	35	学校法人 神戸創志学園 関西健康科学専門学校	〒659-0065 兵庫県芦屋市公光町1-18	0797-22-7221 0797-22-9333
岡山県 1校	36	学校法人 朝日医療学園 朝日医療大学校	〒700-0026 岡山県岡山市北区奉還町2-7-1	086-255-2000 086-255-2010
広島県 1校	37	学校法人 I G L 学園 I G L 医療福祉専門学校	〒731-3164 広島県広島市安佐南区伴東1-12-18	082-849-5001 082-849-5115
香川県 1校	38	学校法人 大麻学園 四国医療専門学校	〒769-0205 香川県綾歌郡宇多津町浜五番丁62-1	0877-41-2320 0877-41-2322
愛媛県 1校	39	学校法人 河原学園 河原医療福祉専門学校	〒790-0014 愛媛県松山市柳井町3-3-13	089-946-3388 089-946-4555
福岡県 4校	40	学校法人 福岡医療学院 福岡医療専門学校	〒814-0005 福岡県福岡市早良区祖原3-1	092-833-6120 092-833-6516
	41	学校法人 滋慶学園 福岡医健・スポーツ専門学校	〒812-0032 福岡県福岡市博多区石城町7-30	092-262-2119 092-262-8669
	42	学校法人 都築学園 福岡天神医療リハビリ専門学校	〒810-0004 福岡県福岡市中央区渡辺通4-3-7	092-738-7823 092-738-8584
	43	学校法人 国際学園 九州医療スポーツ専門学校	〒802-0077 福岡県北九州市小倉北区馬借1丁目1-2	093-531-5331 093-531-5332
佐賀県 1校	44	学校法人 九州アカデミー学園 九州医療専門学校	〒841-0027 佐賀県鳥栖市松原町1709-2	0942-81-3131 0942-81-3154
沖縄県 1校	45	学校法人 松正学園 専門学校沖縄統合医療学院	〒901-2132 沖縄県浦添市伊祖4丁目1番-19号	098-875-8377 098-875-8366
合 計		45校		

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

学校理事長・校長・正会員名簿

令和5年7月5日現在

		学 校 名	理事長	校 長	正会員
北海道 2校	1	公益社団法人 北海道柔道整復師会 附属北海道柔道整復専門学校	高山 訓正	加藤 貞利	高山 訓正
	2	学校法人 滋慶学園 北海道ハイテクノロジー専門学校	浮舟 邦彦	佐藤 俊	早坂 正利
岩手県 1校	3	学校法人 龍澤学園 盛岡医療大学校	龍澤 尚孝	鈴木 一幸	栗島 秀行
宮城県 2校	4	学校法人 東北柔専 仙台接骨医療専門学校	島谷 剛美	島谷 夕美	島谷 夕美
	5	学校法人 赤門宏志学院 仙台赤門医療専門学校	坂本 正憲	安齋 昌弘	坂本 正憲
福島県 1校	6	学校法人 平成医療学園 福島医療専門学校	岸野 雅方	飯島 正治	岸野 雅方
群馬県 1校	7	学校法人 国際中央学園 中央スポーツ医療専門学校	中島 利郎	林 康宏	中島 利郎
埼玉県 2校	8	学校法人 大川学園 大川学園医療福祉専門学校	奥村 千秋	平澤 淳	平澤 淳
	9	学校法人 呉竹学園 呉竹医療専門学校	坂本 歩	齊藤 秀樹	八亀俊一郎
東京都 11校	10	学校法人 花田学園 日本柔道整復専門学校	櫻井 康司	櫻井 康司	櫻井 康司
	11	学校法人 呉竹学園 東京医療専門学校	坂本 歩	村上 哲二	齊藤 秀樹
	12	学校法人 敬心学園 日本医学柔整鍼灸専門学校	小林 光俊	奥田 久幸	奥田 久幸
	13	学校法人 エイジェック学園 スポーツ健康医療専門学校	石原 征二	桑原 淳	桑原 淳
	14	学校法人 滋慶学園 東京メディカル・スポーツ専門学校	浮舟 邦彦	関口 正雄	関口 正雄
	15	学校法人 片柳学園 日本工学院八王子専門学校	千葉 茂	山野 大星	千葉 茂
	16	学校法人 創志学園 日本健康医療専門学校	増田 哲也	清宫 克幸	大橋 博
	17	学校法人 都築科学学園 関東柔道整復専門学校	都築 慶子	都築 稔	都築 稔
	18	学校法人 小倉学園 新宿医療専門学校	小倉 基義	小倉 芳裕	永野 修
	19	学校法人 西田学園 アルファ医療福祉専門学校	西田 忠康	瀧 将仁	瀧 将仁
	20	学校法人 常陽学園 東京医療福祉専門学校	渡邊 賢二	殿村 康一	殿村 康一
神奈川県 1校	21	学校法人 呉竹学園 呉竹鍼灸柔整専門学校	坂本 歩	坂本 歩	村上 哲二
静岡県 1校	22	学校法人 森島学園 専門学校浜松医療学院	森島 康之	遠藤 進	森島 康之

		学 校 名	理事長	校 長	正会員
愛知県 3校	23	学校法人 米田学園 米田柔整専門学校	米田 忠正	山本 啓司	米田 忠正
	24	学校法人 滋慶コミュニケーションアート 名古屋医健スポーツ専門学校	近藤 雅臣	久保田 一	竹本 雅信
	25	学校法人 葛谷学園 中和医療専門学校	楠本 高紀	清水 洋二	清水 洋二
石川県 1校	26	学校法人 木島学園 北信越柔整専門学校	碓井 貞成	碓井 貞成	碓井 貞成
京都府 1校	27	学校法人 滋慶コミュニケーションアート 京都医健専門学校	近藤 雅臣	小林 哲夫	竹本 雅信
大阪府 7校	28	学校法人 関西医療学園 関西医療学園専門学校	武田 大輔	武田 大輔	廣岡 聡
	29	学校法人 明治東洋医学院 明治東洋医学院専門学校	谷口 和彦	三澤 圭吾	谷口 和彦
	30	学校法人 平成医療学園 平成医療学園専門学校	岸野 雅方	北野 吉廣	北野 吉廣
	31	学校法人 森ノ宮医療学園 森ノ宮医療学園専門学校	清水 尚道	清水 尚道	清水 尚道
	32	学校法人 履正社 履正社国際医療スポーツ専門学校	金谷 等	池尾 忠思	田中 雅博
	33	学校法人 近畿医療学園 近畿医療専門学校	小林 英健	清原 伸彦	坂本 博
	34	学校法人 大阪滋慶学園 東洋医療専門学校	浮舟 邦彦	太田 宗夫	古谷 圭司
兵庫県 1校	35	学校法人 神戸創志学園 関西健康科学専門学校	岡田 典世	住田 行志	岡田 典世
岡山県 1校	36	学校法人 朝日医療学園 朝日医療大学校	津島 伸章	草地 清志	津島 伸章
広島県 1校	37	学校法人 I G L 学園 I G L 医療福祉専門学校	永見 憲吾	本廣 淳範	本廣 淳範
香川県 1校	38	学校法人 大麻学園 四国医療専門学校	大麻 正晴	後藤 修司	大麻 正晴
愛媛県 1校	39	学校法人 河原学園 河原医療福祉専門学校	河原 成紀	越智 節也	水野 晋悟
福岡県 4校	40	学校法人 福岡医療学院 福岡医療専門学校	藤瀬 武	藤瀬 武	藤瀬 武
	41	学校法人 滋慶学園 福岡医健・スポーツ専門学校	浮舟 邦彦	古谷野 潔	古谷野 潔
	42	学校法人 都築学園 福岡天神医療リハビリ専門学校	都築 仁子	大川 照明	大川 照明
	43	学校法人 国際学園 九州医療スポーツ専門学校	水嶋 章陽	赤木 恭平	水嶋 章陽
佐賀県 1校	44	学校法人 九州アカデミー学園 九州医療専門学校	門司 誠一	井上 勇介	門司 誠一
沖縄県 1校	45	学校法人 松正学園 専門学校沖縄統合医療学院	松浦 幸男	鈴木 信司	鈴木 信司

賛助会員名簿

賛助会員団体名	代表者氏名	住 所	電話番号
株式会社南江堂	代表取締役社長 小 立 健 太	〒113-8410 文京区本郷3-42-6	03-3811-7140
医歯薬出版株式会社	代表取締役社長 白 石 泰 夫	〒113-8612 文京区本駒込1-7-10	03-5395-7616

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 教育支援委員会教科書部会 名簿

令和5年4月1日より令和7年3月31日まで

令和5年9月15日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	呉竹医療専門学校	校長	齊藤 秀樹
部会長	明治東洋医学院専門学校	校長	三澤 圭吾
副部会長	呉竹医療専門学校	教員	村澤 幸弘
部員	仙台接骨医療専門学校	教頭	佐藤 真希
部員	福島医療専門学校	教務部長	齊藤 慎吾
部員	中央スポーツ医療専門学校	専任教員	安海 弘晃
部員	スポーツ健康医療専門学校	副学科長	淵ノ上真太郎
部員	専門学校浜松医療学院	学科長	錦織 輝礼
部員	米田柔整専門学校	教員	生駒 慎二
部員	朝日医療大学校	学科長	大隅 力
部員	河原医療福祉専門学校	教頭	鈴 武利
部員	福岡医健・スポーツ専門学校	専任教員	水元 宏哉
部員	九州医療専門学校	学科長	塚本 直太

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 教育支援委員会教員研修等部会 名簿

令和5年4月1日より令和7年3月31日まで

令和5年6月22日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	日本体育大学保健医療学部	教授	伊藤 譲
部会長	森ノ宮医療学園専門学校	教員	葉山 直史
副部会長	九州医療スポーツ専門学校	教務部長	桑野 幸仁
部員	北海道ハイテクノロジー専門学校	教員	瀧ヶ平隆一
部員	日本工学院八王子専門学校	教員	青木 伊之
部員	関東柔道整復専門学校	学科長代理	加藤 稔啓
部員	北信越柔整専門学校	理事長・校長	碓井 貞成
部員	東洋医療専門学校	副学科長	山田 靖典
部員	四国医療専門学校	専任教員	四宮 英雄
部員	専門学校沖縄統合医療学院	教員	登崎 正行

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 教育支援委員会専科教員認定講習部会 名簿

令和5年4月1日より令和7年3月31日まで

令和5年12月18日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	日本体育大学保健医療学部	教授	伊藤 譲
部会長	呉竹医療専門学校	臨床教育研究センター マネージャー	川口 央修
副部会長	平成医療学園専門学校	校長	北野 吉廣
部員	日本柔道整復専門学校	教務副部長	山口 竜彦
部員	日本健康医療専門学校	専任教員	新才 博紀
部員	新宿医療専門学校	専任教員	春日 貴之
部員	明治東洋医学院専門学校	専任教員	神内 伸晃
部員	近畿医療専門学校	副校長	上野 雅洋

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 教育支援委員会柔道整復師国家試験模擬試験部会 名簿

令和5年4月1日より令和7年3月31日まで

令和5年4月1日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	呉竹医療専門学校	校長	齊藤 秀樹
部会長	東京医療専門学校	学科長	杉山 直人
副部会長	明治東洋医学院専門学校	教務課長	秋津 知宏
副部会長	滋慶学園グループ	国家試験対策センター長	稲岡 隆輔
部員	附属北海道柔道整復専門学校	教務主任	野崎 享
部員	東京メディカル・スポーツ専門学校	科長	小関 孝男
部員	呉竹鍼灸柔整専門学校	科長	田中 秀和
部員	中和医療専門学校	学科長補佐	太田 康晴
部員	関西医療学園専門学校	学生部長補佐	林 竜也
部員	履正社国際医療スポーツ専門学校	学科長補佐	桃井 俊明
部員	四国医療専門学校	学科主任	鹿庭 祥平

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 広報・調査委員会 委員名簿

令和5年4月1日より令和7年3月31日まで

令和5年4月1日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	四国医療専門学校	副理事長	大麻 正晴
委員長	東京医療専門学校	事務長補佐	廣木 智
副委員長	四国医療専門学校	学科主任	鹿庭 祥平
委員	仙台接骨医療専門学校	教頭	佐藤 真希
委員	仙台赤門医療専門学校	専任教員	亀井 啓
委員	日本医学柔整鍼灸専門学校	専任教員	片橋 るみ
委員	関西医療学園専門学校	次長	徳田 明也
委員	森ノ宮医療学園専門学校	教員	小笠原宏之
委員	関西健康科学専門学校	教員	宮崎 香織

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 柔道委員会 委員名簿

令和5年4月1日より令和7年3月31日まで

令和5年4月1日より

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	関西医療学園専門学校	副校長	廣岡 聡
委員長	東京医療専門学校	科長補佐	早川 幸秀
副委員長	京都医健専門学校	副校長	湊谷 知幹
委員	北海道柔道整復専門学校	教員	筒井 寛幸
委員	日本柔道整復専門学校	教員	赤羽 泰彦
委員	名古屋医健スポーツ専門学校	副校長	米女 博司
委員	I G L医療福祉専門学校	学科長	埜 義徳

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 組織運営委員会 委員名簿

令和5年4月1日より令和7年3月31日まで

令和5年4月1日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	履正社国際医療スポーツ専門学校	副校長	田中 雅博
委員長	明治東洋医学院専門学校	事務局長	藤井 義巳
副委員長	履正社国際医療スポーツ専門学校	副学科長	辻井 宏昭
委員	盛岡医療大学校	教務部長 兼学科長	松岡 靖
委員	大川学園医療福祉専門学校	学科長	霞 孝行
委員	アルファ医療福祉専門学校	学科長	鈴木 忠慶
委員	東京医療福祉専門学校	学科長	伊藤 浩二
委員	福岡医療専門学校	副校長	藤瀬 正
委員	福岡天神医療リハビリ専門学校	学科長	小川 勝

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

ようやく新型コロナの影響も小さくなり、普段通りの年末年始が戻ってきたと実感されている方も多いのではないのでしょうか。私自身も新年を迎えることができたありがたさを、これまで以上に感じているところです。

とはいえ全く同じ世界が戻ってきたわけではなく、大きく時代が進んだなあと感じることも多くあります。気を抜くとあっという間に置いていかれそうです。

年々新しく入学してくる学生たちと年齢が離れていくので、少しでも若い人たちを理解しようと、流行りの漫画や映画などのコンテンツやSNSにできるだけ触れるようにしています。最近のコンテンツのクオリティは凄いですね。もし私の学生時代に周りにこんな面白いコンテンツが溢れていたなら、絶対に勉強しなかった自信があります。こんなに面白くて誘惑の多いコンテンツに囲まれながら勉強を続けている今の学生さんたちには頭が下がります。

こんなに面白いコンテンツが溢れる中、私たち広報調査委員会はどんな情報発信をすれば喜んでもらえるのか、ハードルがどんどん上がっている気がしますが、毎回頭を捻って考えています。ぜひ皆様の声もお聞かせください。また記事の多くは、会員校の多くの方々から業務の合間を縫って執筆してくださっています。いつもありがとうございます。これからも明るい話題を皆様にお届けできればいいなと思っております。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

広報・調査委員会 委員
森ノ宮医療学園専門学校 小笠原 宏之

公益社団法人 全国柔道整復学校協会広報誌 **会 報** 第69号

令和6年1月 発行

発 行 所 公益社団法人 全国柔道整復学校協会
発 行 人 谷 口 和 彦

〒105-0013 東京都港区浜松町1丁目6-2
丸神ビル1階

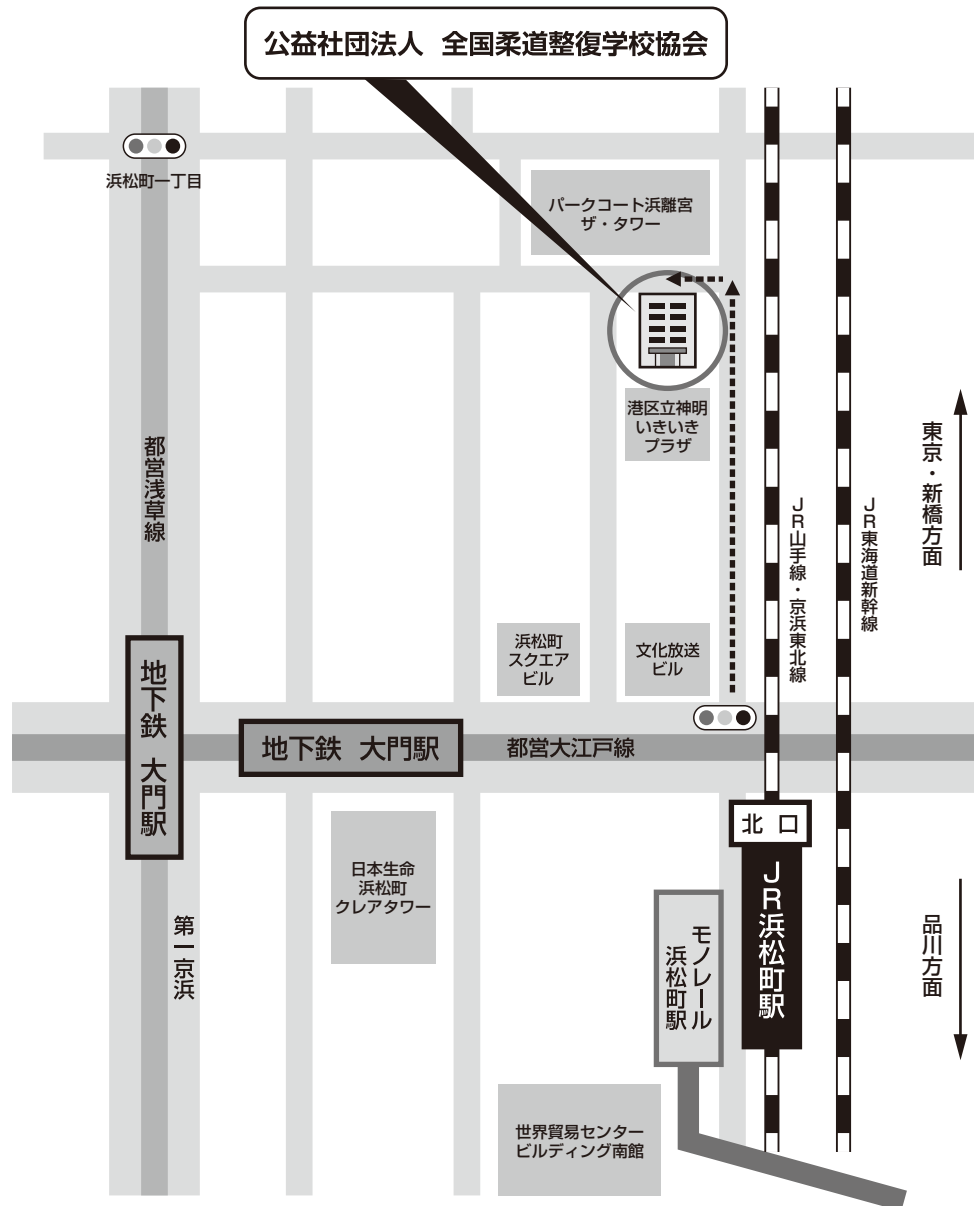
電 話 03-5405-1690

F A X 03-5405-3790

ホームページ <https://www.judo-seifuku.or.jp/>

印 刷 所 大和綜合印刷株式会社

案内図



アクセス

- ・JR「浜松町駅」北口より徒歩5分
- ・都営地下鉄浅草線「大門駅」B1より徒歩5分
- ・都営地下鉄大江戸線「大門駅」B1より徒歩5分

所在地

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

〒105-0013

東京都港区浜松町1丁目6-2丸神ビル1F

TEL：(03) 5405-1690 FAX：(03) 5405-3790

専科教員認定講習会

公益社団法人 全国柔道整復学校協会



公益社団法人 全国柔道整復学校協会は、
専科教員資格取得のための講習会を
開催しています。

教員資格を取得するためには、
専科教員認定講習会の受講が必要です

2024年度	受講試験	2024年5月12日(日) (予定)
	申込期間	2024年3月1日(金)～3月29日(金)
	講習日程	2024年6月～10月の(土)・(日)・(祝)
	講習会場	東京会場・大阪会場 (予定)

■詳細は2024年3月に学校協会ホームページにて公開の予定です



www.judo-seifuku.or.jp

THE JAPAN ASSOCIATION OF JUDO-SEIFUKU COLLEGES

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

〒105-0013 東京都港区浜松町1丁目6-2 丸神ビル1階

TEL.03-5405-1690 FAX.03-5405-3790

